

目次

| | |
|-------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 1. 団体紹介 | 2 |
| 2. 事業計画 | 3 |
| 3. 事業報告 | 7 |
| 4. 事業評価（総評・課題・展望） | 12 |
| 5. 資料 | 21 |
| おわりに・謝辞 | 47 |

はじめに

私たちは、1998年から障がい者や認知症高齢者など、野外での活動に取り組みにくい人を対象に、キャンプやスキーなどの支援をしてきました。最初のころは安全に活動するだけで必死でしたが、いろいろな体験をする中で、安全に実施することに大きな自信を得ることができるようになりました。例えば、障害者とボランティアをマンツーマンに配置することで消極的に安全を守れるというだけでなく、彼らのニーズをはっきり把握し、不安を取り除き、快適に過ごせるようになりました。

また、場所やメンバー、活動内容を固定し、繰り返すことによって、さらに彼らの安心感を増し、新しい活動にもチャレンジすることができるようになりました。私たちはグループキャブとっているのですが、ほぼ毎月1回、同じグループメンバー、同じ支援者、同じ場所で、同じ活動をすることによって、どんどんメンバーの主体性が増えてくることがわかりました。例えば、自閉傾向のメンバーが苦手な夜のキャンプファイヤーも、最初は一つの輪の中にいることすら難しかったのに、長いときは2時間ほどもかかるのですが、最初から最後までみんなと一緒に一つの輪の中において、知っているゲームになると大きな声も出して楽しめるようになりました。

この仕組みに、医学的な見地やソーシャルワークの手法を組み込めば、まだ小さい発達障害の子どももキャンプに参加し、苦手な集団活動に参加できるに違いないと、保護者の方とも考え方を共有しながら取り組んだのが、このわくわくキャンプです。

障害者の可能性を拓く難しさ、その困難を乗り越えていく喜びをこの報告書を通してともに体験していただければと思います。

(キャンピズスーパーバイザー 石田易司)

2020年はオリンピック開催の祝福ムードで新年を迎えましたが、新型コロナウイルス出現により日本はもとより世界中が漆黒の闇に吸い込まれていきました。私たちが行っているキャンプもご多分に漏れず大きな影響を被りました。この年の2月より予定されていたキャンプはすべて中止を余儀なくされました。その後、コロナウイルスの感染状況や社会情勢をうかがいながら再開のタイミングを図ってきましたが幾度となく訪れる感染拡大の波に脆くも飲み込まれ、今に至ります。

この間、子どもたちの一変した生活を目の当たりにする場面がありました。私たちのメンバーの子どもの場合、4月から小学校1年生という晴れやかな記念すべき年でしたが、全国的な一斉休校のあおりを受け入学式も行われませんでした。小学校の校門前の入学式の看板前での記念撮影もアルバムには残りません。さらに共働きでもあるメンバーは子連れ出勤をせざるを得なくなりました。理解のある事業所に勤務していたこと、そして緊急事態宣言下で障害者就労支援が在宅支援に切り替わっていたこともあり受け入れてもらえましたが、子どもにとっては相当な我慢を強いられたことでしょう。

多くの子どもたちが行動を制限され、奔放に大自然を走り回ることができない状況から間もなく2年を迎えます。とくに発達が気になる子どもたちの場合は、さらに多くの制約を受けてきたことでしょう。そこで、ささやかながらキャンプ再開への試金石としてこの事業に取り組み、その成果をこれからのキャンプに結び付けていきたいと考えています。これまで私たちが行ってきたキャンプを取り戻すことは困難かもしれませんが、新しい生活様式やICTなどを活用した新たなキャンプスタイルの確立を目指します。

(キャンピズ代表理事 水流寛二)

1. 団体紹介

1.1. 団体名

特定非営利活動法人 キャンピズ

1.2. 代表者役職・氏名

代表理事 水流 寛二

1.3. 団体住所

〒540-0012 大阪市中央区谷町2-2-20 2F 市民活動スクエアCANVAS谷町

1.4. 団体電話番号・FAX

Tel : 06-7657-5001 FAX : 06-7657-5001

1.5. URL

<http://campwith.jp/>

1.6. 概要・沿革

特定非営利活動法人キャンピズとは、キャンプ・レクリエーション活動を通し、人と人が信頼しあい、お互いに助け合って生きていける社会づくりを目標とするNPO団体(設立1998年、NPO認証 2002年9月)。

- ・主な事業： 障がい児・者対象キャンプ事業 (約23年)
就労支援B型(ウイズ芦屋、2017年6月1日設立)
- ・コロナ以前の年間キャンプ数：約40キャンプ(研修キャンプ含む)
- ・主な対象者：知的・発達・精神障がいのある子どもから大人とその家族
- ・主な運営費：会費と参加費(新規事業は助成を頂き実施)
- ・主なスタッフ：桃山学院大学社会福祉学科学生・卒業生・専門家等

- 1998年 大阪市教育委員会主催、障がい者アウトドア体験ボランティア養成講座を大阪市立中央青年センターにて開催後、キャンピズとして任意団体設立
- 2002年9月 特定非営利活動法人(NPO法人)の認証
法人登記住所(大阪市福島区吉野 大阪NPOプラザ内)
- 2013年4月 大阪NPOプラザ閉館に伴う法人登記住所移転及び事務局移転
法人登記住所(大阪市中央区東心斎橋)
事務局(大阪ボランティア協会CANVAS谷町内)
- 2017年6月 兵庫県指定障害福祉サービス就労継続支援B型事業ウイズ芦屋開所
- 2017年6月 大阪市委託事業・平野区みんな食堂ネットワーク拠点事業開始
- 2019年2月 法人登記住所移転(大阪市中央区淡路町)
- 2020年3月 大阪市委託事業・平野区みんな食堂ネットワーク拠点事業終了
- 2020年4月 就労継続支援B型事業ウイズ芦屋移転(芦屋市公光町→伊勢町)

1.7. 団体が管理、運営する施設

障害福祉サービス・就労継続支援B型事業「ウイズ芦屋」

1.8. 類似事業等の実績

| 事業年度 | 事業名 | 経費(円) | 委託先等 (委託・補助・助成事業) |
|---------------|-------------------------------|-----------|----------------------------|
| 2010 | 障害児者キャンプ指導者養成講座 | 1,585,000 | 独立行政法人 福祉医療機構社会福祉振興助成事業 |
| 2010 | キャンピズどきどきプロジェクト | 673,000 | 大阪市市民活動推進基金等事業補助金 |
| 2013 | 障がい児・者余暇支援の輪を広げようプロジェクト | 386,000 | 大阪市市民活動推進基金等事業補助金 |
| 2015 | キャンプを通じた発達の気になる子ども支援ネットワークづくり | 500,000 | NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド |
| 2014 ～2020 | 健康回復児キャンプ (ぜんそく児) | | 大阪市保健所 |
| 2018 | 2525（にこにこ）キャンプ | | 大阪府キャンプ協会25周年記念事業 |
| 2020 | ゴールドマン・サックス 緊急子ども支援基金 | 980,000 | 公益財団法人パブリックリソース財団 |

1.9. 委託事業連絡担当窓口

竹内靖子（NPO法人 キャンピズ 理事 桃山学院大学社会学部准教授）
 阪田昌三（NPO法人 キャンピズ 理事 総務部長）

2. 事業計画

2.1. 事業名

発達が気になるこどもとつくる わくわくキッズキャンプ プロジェクト
 （区分）子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業
 （全国的な普及啓発の実施）先駆的・モデル的な青少年体験活動の推進方策の試行

2.2. 事業の趣旨

NPO法人キャンピズでは、2015年から発達が気になるこどもたちが主体的に自然体験活動を楽しむキャンプとして「キッズキャンプ」を行っている(表1, 資料5.1.参照)。

キッズキャンプでは、こどもたちのやってみたい事を聞くアンケートや、キャンプ中に新しくできるようになったことを称える表彰状を渡すことで、成功体験や得意なことを関係者と共有し、学校生活や親子関係に良い影響を与えてきた。このような、いつも（学校や家庭）と違う仲間との自然体験活動を通して、こどもたちのポジティブな表情・考え・行動の変化が見受けられていた。

しかし、2020年2月より新型コロナウイルスの影響を受けキャンプが中止となった。そのため、これまでの参加者は、家族や特定の仲間と室内で過ごす時間が増加し、屋外

遊びの機会や自然体験の機会が減少した。特にこのような自然体験活動の機会の減少は、発達が気になることもたちの自然環境への関心や他者とのコミュニケーション力、社会性を育む機会の減少につながると懸念される。

この状況を改善するため、本プロジェクトでは、新しい生活様式を踏まえ、発達が気になることもが仲間と協力しながら楽しい自然体験活動をより安全につくることを目指し、以下4つの事業に取り組む。

- ・ **こども会議**：こどもたちがやってみたい自然体験活動を抽出する。
- ・ **研修事業**：上記で抽出された活動プログラムを立案する。
- ・ **キャンプ事業**：上記プログラムを実行する。
- ・ **報告書制作・普及**：結果をまとめ関係団体と情報を共有する。

本プロジェクトは、第3期教育振興基本計画及び、NPO法人キャンピズの理念に沿った活動である。発達が気になるこどもたちが自らやってみたい自然体験活動を仲間と一緒に試行錯誤し、実践・報告する機会を提供することで、多様なニーズのある人たちがより安全に自然体験活動を行う方法を開発・再構築する。これにより、地域共生教育プログラムの機会が促進されると期待する。

(表1) キャンピズキッズキャンプとは

| |
|---|
| 【対象】 5歳～小学生の発達が気になるこども（定員15名）家族も参加可能 |
| 【こどもの目的】 様々なフィールドでの楽しいキャンプ活動経験を通し、こども同士が互いに助け合うことを覚え、こどもの社会性などの成長を促す。 |
| 【関係者の目的】 こどもを理解し支援のあり方を考えるための情報交換や悩み等の話し合いを通し、参加者の課題を明確化し、参加者の課題解決を目指す。 |
| 【プログラムの特徴】 年間を通して3回、同じメンバー、同じスタッフ、構造化されたキャンププログラムを行うことで、参加者は、プログラム、メンバーに慣れ、他人であるリーダーに甘えることを覚え、グループ内における自分の役割や仲間との関係性を学ぶ。さらに参加者はキャンプを楽しみながら成功体験を経験したりすることで、より良い友人関係・親子関係・社会との関係づくりも学ぶ。（主なプログラム：野外炊事・キャンプファイヤー・野外あそび・季節のクラフト） |

キャンピズキッズキャンプ企画書（2015～2020）より引用

2.3. 構成

【推進に係る体制】 委員は以下の通りである。関係図は下記参照。
(※チーフは下線付き)

【こども委員長と委員】 大阪府在住発達が気になる小中学生(10名) 公募で決定

【おとな委員長・委員・講師】 キャンピズでのディレクター経験者で構成 (20名)

委員長：水流寛二 (研修事業チーフ・キャンピズ代表理事)

委員：竹内靖子 (報告書・普及チーフ・プロジェクト企画・桃山学院大学准教授)

阪田昌三 (キャンプ事業チーフ・キャンピズ総務部長)

水井広起 (キャンピズ事務局長)

花川暁子 (キャンピズキッズキャンプ看護師)

藤原一秀 (WEB/DTP担当 キャンピズ理事 就労支援B型エルピスワン管理者)

金本拓也 (社会福祉法人ライフサポート協会 生活介助はぴな 支援員)

中野堅太 (社会福祉法人ノーマライゼーション協会 生活支援員)

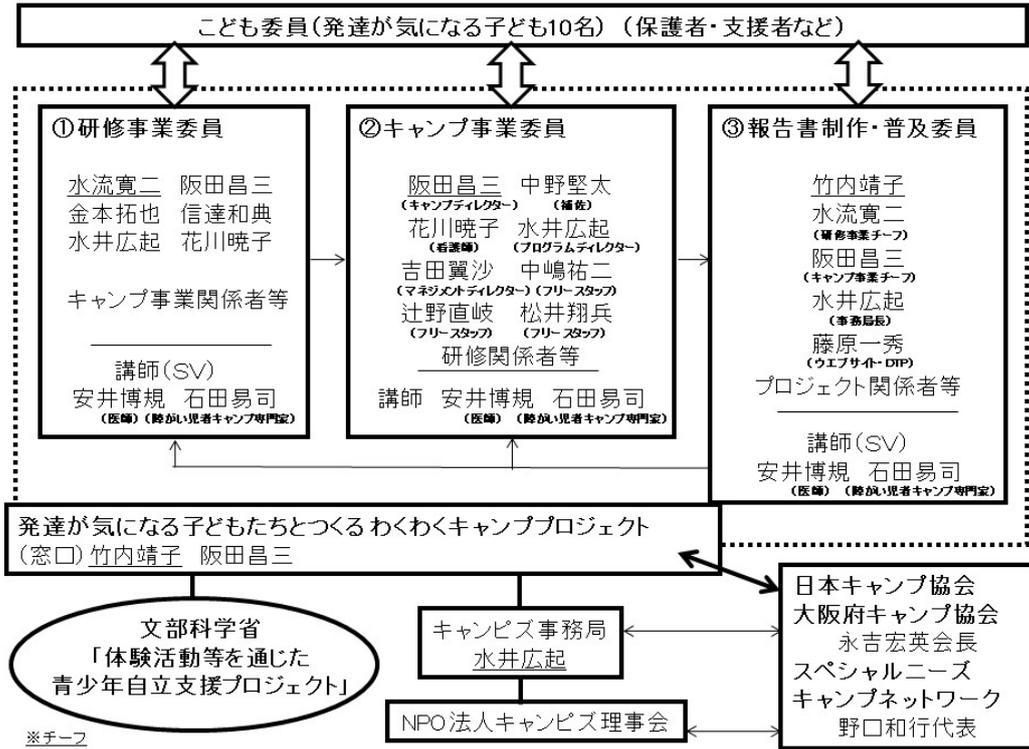
信達和典 (医療法人弘清会 四ツ橋診療所 診療所ソーシャルワーカー)

吉田翼沙 (大阪市北区社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーカー)

中嶋祐二（公益財団法人 大阪YMCA 職員）
 辻野直岐（社会福祉法人四幸舎和会 くりのみ園支援員）
 松井翔兵（社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 障害者支援施設太平生活支援員）

その他委員は、キャンピズキャンプ学生スタッフより選出

講師：石田易司（キャンピズスーパーバイザー 桃山学院大学名誉教授）
 安井博規（医療法人弘清会 四ツ橋診療所 副院長）



2.4. 会議開催予定

| 月 日 | 内 容 |
|----------|---|
| 6月7日と14日 | 【[窓口] [チーフ担当者] 会議】事業計画書等作成 (@Zoom) |
| 6月下旬 | 【全体会議】 プロジェクト説明会 スタッフ役割・スケジュール等確認 (@Zoom) |
| 6月下旬 | 【事業別会議】 [①研修事業] [②キャンプ事業] [③報告書制作・普及] 役割・スケジュール等確認 (@Zoom) |
| 7月上旬 | 【研修キャンプ説明会（おとな会議）】 場所：大阪南YMCA |
| 7月上旬 | ～キャンプ参加者募集開始～チラシ配布（500部：大阪府下のキャンプ団体・こども会・こども食堂・特別支援学級・特別支援学校等）ホームページとSNSで広報 |

| | |
|-----------|--|
| 7月下旬 | ～キャンプ参加者決定～ 大阪府在住発達が気になる小中学生10名 |
| 8月中旬 | 【わくわくキッズキャンプ説明会（こども会議）】場所：大阪南YMCA 対象：キャンプ参加者（10名）プロジェクト委員（20名） 目的：顔合わせ（自己紹介）・プロジェクト概要説明・参加者のやってみいたい自然体験活動発表など |
| 8月下旬 | 【【①研修事業】担当者会議】こども会議を基本にプログラム立案（@Zoom） |
| 9月3～4日 | 【【①研修事業】研修キャンプ】 対象：スタッフ（おとな委員：20名） 目的：スタッフが本キャンプ（10/30～31実施）と同じプログラムを実践し、新しい生活様式とこどもの希望に沿ったプログラム支援準備と確認を行う 場所：大阪市立信太山青少年野外活動センター（現地集合・現地解散） 研修① 新しい生活様式を踏まえた自然体験活動と青少年自立支援 石田易司氏（障害児者キャンプ実践研究者） 研修② 新型コロナウイルス対策と実際のプログラム 安井博規氏（インクルーシブ医療実践医師） |
| 9月下旬 | 【【②キャンプ事業】担当者会議】（@事務局） ～キャンプのしおり印刷・郵送・プログラム準備～ |
| 10月30～31日 | 【【②キャンプ事業】わくわくキッズキャンプ】 対象：発達が気になるこども（10名）スタッフ（20名） 目的：新しい生活様式に沿ってこどもたちのやってみいたい自然体験活動に挑戦することで、他者との楽しいコミュニケーション体験や社会性を学ぶ 場所：大阪市立信太山青少年野外活動センター（現地集合・現地解散） 参加費：4000円程度（実費徴収）を予定 研修① 新しい生活様式に沿ってキャンプしよう 安井博規氏（インクルーシブ医療実践医師） 研修② 自然体験講師 ○○○○氏（こども会議で講師決定） |
| 11月中旬 | 【【③報告書制作】担当者会議】（@Zoom）～原稿・イラスト依頼～ 研修① 自然体験活動を通じた青少年自立支援の意義と評価 石田易司氏（障害児者キャンプ実践研究者） 研修② 医療面からのキャンプ評価と必要な支援ガイド作成 安井博規氏（インクルーシブ医療実践医師） |
| 12月中旬 | 【【③報告書制作】担当者会議】報告書検討担当者会議（@事務局）～印刷～ |
| 1月上旬 | 【全体会議】プロジェクト報告会（@Zoom） 対象：発達が気になるこども（10名）スタッフ（20名）その家族や関係者 目的：プロジェクトの成果をこども・おとなともに発表・共有し、次へつなぐ |
| 1月下旬 | 【【③報告書制作・普及】担当者会議】（@事務局）～普及～ ～報告書発送（200部）・配布（100部）・ウェブサイト掲示～ 郵送・配布先：プロジェクト関係者・関係団体・日本・大阪府キャンプ協会・スペシャルニーズキャンプネットワーク等 |

2.5. その他

- ・研修キャンプ・わくわくキッズキャンプ等について

現時点では事業内容は、上記（会議の開催予定）の内容で検討中。以下の項目は事業計画が決まり次第追って報告することとした。

- ・選考方法（参加者・スタッフ）について
- ・参加費徴収金額
- ・安全管理体制（現在情報整理中）
- ・詳細スケジュール、プログラム内容等

- ・広報について

・大阪市内の発達気になる子ども対象キャンプ実施団体（15団体）にチラシ郵送またはチラシpdfを送信

- ・NPO法人キャンピズ会員用ニュースレターに掲示（6月、140部）又はチラシpdfを送信

- ・成果の把握・報告・普及等について

発達が気になるこどもの体験活動の機会は、親の環境や考え方の影響を受けやすいため、真の自立支援を考えるならば、こども（キャンプ参加者）がつくるキャンプを、おとな（専門家）が支援するプロジェクトが必要と考えた。これからの地域学習は参加者と専門家が協力し、実践的な自立（共生）支援の形を作っていく必要がある。

そのため、このプロジェクトでは、プロジェクトへの取り組みを記録する。参加者・そのきょうだい・その保護者・関係者・キャンプ専門家・医療・福祉・教育専門家の思いと行動や考え方の変化を報告書にまとめる。報告書の作成・普及は、キャンピズキャンプ支援方法を再検討する機会となり、他団体と共有することで、より汎用性がある発達が気になるこどもの体験活動支援モデルの構築につながる。さらに、多様なこどもたちが気軽にキャンプをつくる・楽しむ環境づくりとこどもたちの心身の健全な発達のための自然体験活動を推進する。

本委託事業での成果（特にコロナ禍における成果）により、今後の自然体験活動の発展に寄与できればと考えている。

3. 事業報告

事業企画書のスケジュールの中で、新型コロナウイルス対策をしながら、対面が難しい場合は、遠隔（メール・Line・電話・zoom・調整さん・Googleドライブ共有等）ツールを活用しできることを1つずつ行い、以下の活動を行った。

3.1. 【【窓口】【チーフ担当者】】会議

日時：2021年6月7日と6月14日（月）

場所：zoom開催

目的：企画書・役割確認

参加者：水流・花川・阪田・水井・竹内

3.2. 【全体会議】

日時：2021年6月26日（土）19:00～

場所：zoom開催

目的：プロジェクト説明会 スタッフ役割・スケジュール等確認

参加者：水流・花川・金本・吉田・中野・藤原・竹内

※社会人スタッフは、それぞれの所属先の新型コロナウイルス対策により、対面での活動が難しい状況が判明したため、組織図変更を検討。

3.3. 【事業別会議】 【①研修事業】 【②キャンプ事業】 【③報告書制作・普及】

期間：2021年6月～

場所：メール会議

目的：役割・スケジュール等確認

3.4. 【研修キャンプ説明会（全体おとな会議）】

日時：2021年8月10日（月）

場所：zoom開催

目的：企画書確認

参加者：水流・阪田・大西・小林・澤田・竹内

※緊急事態宣言中であり対面での説明会はキャンセル、参加者家族やスタッフの所属団体が宿泊不可であったため、宿泊キャンプから、ディキャンプ2回（①キャンプファイヤーディキャンプ ②野外クッキングディキャンプ）に変更【資料5.2. 企画書2021年8月10日&8月31日変更分】後、各班別に準備を進める。

3.5. 【研修キャンプ説明会（おとな会議）】

日時：2021年8月18日（水）

場所：ウイズ芦屋

目的：コアスタッフ情報共有

※キャンプファイヤー班プレキャンプミーティング：桃山学院大学福祉レクリエーション実習としても実施。実習として健康チェック（実施前14日間）を行う。

3.6. 【キャンプ参加者募集開始】

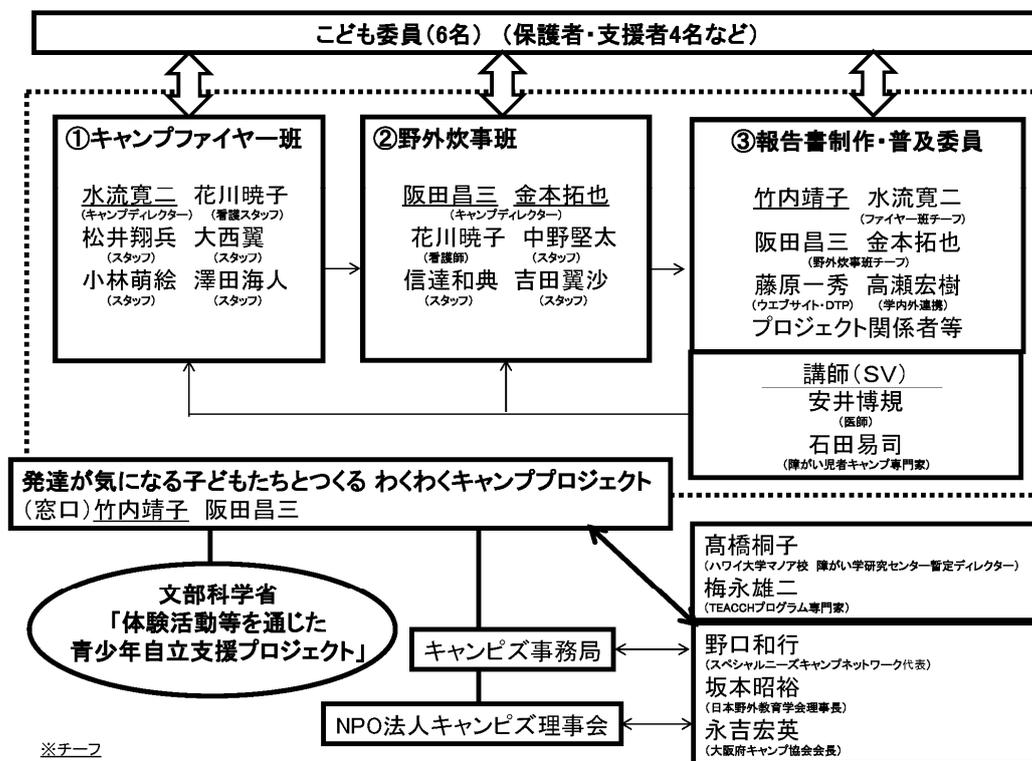
時期：8月上旬

※緊急事態宣言中であり、新型コロナウイルス対策の為、大阪市小学校の宿泊イベントが延期されていたため、当初予定していたチラシ配布・ホームページ・SNSを通じた広報をキャンセルし、昨年度参加者に【資料5.3. 広報チラシ】メール告知に変更（2021年8月10日送信）。小学生を含む家族単位の募集に変更。

3.7. 【キャンプ参加者決定】

時期：2021年8月下旬

※参加希望のあった3家族に決定



3.8. 【わくわくキッズキャンプ説明会 (こども会議)】

日時：8月28日 (土) 14:00~15:30

場所：zoom開催

目的：顔合わせ (自己紹介) ・プロジェクト概要説明 ・参加者のやってみたい自然体験活動発表など

参加者：1家族

スタッフ：竹内・水流・信達・中野

※緊急事態宣言延長に伴い遠隔説明会に変更。参加がかなわなかった、ご家族へは個別に連絡し、ニーズを確認 (活動の希望は、防災クッキング・焼きマシュマロ・クラフト・アートファイヤー・チーズフォンデュ等)

3.9. 【 [①研修事業] 担当者会議】 こども会議を基本にプログラム案作成

3.10. 【 [①研修事業] 研修キャンプ】

日時：2021年9月3日 (金)

目的：スタッフが本キャンプ (10/30実施) と同じプログラムを実践し、新しい生活様式とこどもの希望に沿ったプログラム支援準備と確認を行う

場所：大阪市立信太山青少年野外活動センター (現地集合・現地解散)

スタッフ：水流・松井・大西・小林・澤田・竹内

研修①：新しい生活様式を踏まえた自然体験活動と青少年自立支援
 石田易司氏 (障害児者キャンプ実践研究者)

遠隔によるスーパーバイズ：新型コロナウイルス対策と実際のプログラム
安井博規氏（インクルーシブ医療実践医師）

参考資料：[資料5.4. プレキャンプ報告]

3.11. 【[②キャンプ事業] 担当者会議】

期間：2021年9月～10月

内容：・新型コロナウイルス感染症予防策検討（主担当：花川・安井）
・プログラム準備（メール・Zoom会議）（主担当：水流・阪田・金本）
・キャンプのしおりデータ送信（2021年10月13日）（主担当：竹内）
・キャンプのしおり印刷・郵送（主担当：阪田）

参考資料：[資料5.5. 参加者・スタッフへの連絡]

3.12. 【[②キャンプ事業] わくわくキッズキャンプ】

日時：2021年10月30日（土）

参加者：こども（2名）保護者（2名）スタッフ（6名）

目的：新しい生活様式に沿ってこどもたちのやってみたい自然体験活動に挑戦することで、他者との楽しいコミュニケーション体験や社会性を学ぶ

場所：大阪市立信太山青少年野外活動センター（現地集合・現地解散）

参加費：4000円程度（実費徴収）を予定

プログラム等詳細：[資料5.6. キャンプファイヤー報告]

日時：2021年10月31日（日）

参加者：こども（4名）保護者（3名）スタッフ（6名）

目的：新しい生活様式に沿ってこどもたちのやってみたい自然体験活動に挑戦することで、他者との楽しいコミュニケーション体験や社会性を学ぶ

場所：大阪市立信太山青少年野外活動センター（現地集合・現地解散）

参加費：4000円程度（実費徴収）を予定

プログラム等詳細：[資料5.7. 野外クッキング報告]

3.13. 【[③報告書制作] 担当者会議】 (@Zoom) ～原稿・イラスト依頼～

期間：2021年11月～12月

内容：・参加者アンケート(11月上旬) [資料5.8. 参加者アンケート結果]
・スタッフアンケート(11月中旬) [資料5.9. スタッフアンケート結果]
・参加者・スタッフ_キャンプのおもいで写真アート(12月)
・専門家関係者の総評原稿依頼(12月)

※感染対策の為、対面会議・研修は行わず、各専門家に原稿を依頼。各専門家や関係者の作品及び総評は、次章と参考資料を参照

3.14. 【[③報告書制作] 全体会議】 報告書担当者会議 プロジェクト報告会 (@Zoom)

日時：2022年1月9日（日）14:00～15:00

対象：こども（5名）保護者（2名）スタッフ（3名）等

目的：プロジェクトの成果をこども・おとなともに発表・共有し、次へつなぐ

場所：Web会議



3.15. 【【③報告書制作・普及】担当者会議】（@事務局）～普及～ウェブサイト掲示～

期間：2022年2月

対象：プロジェクト関係者・関係団体（日本・大阪府キャンプ協会・スペシャルニーズ
キャンプネットワーク・ハワイ大学障がい学研究センター）等

目的：事業内容を関係者・関係団体と振り返り、次の活動へとつなげる。

3.16. 【窓口担当者会議】

期間：2022年2月

目的：事業事務手続きの完了

プロジェクト収支決算書・成果報告書・報告シート作成提出

【事業の成果と課題】

①成果

参加者のニーズを中心に、関係者の状況を確認しながらとものつくる活動は、参加者・家族・スタッフがお互いを理解しながらじっくりとできることに挑戦する取り組みであった。その取り組みを繰り返し、自然体験を通じ、日常とは違う自分に気づき、関係者との対等な関係性の中で信頼関係が育まれること。さらにたくさんの選択肢の中から選ぶ行為を繰り返すことで、自主性や積極性が育まれることが示唆された。

その成果は、キャンプ後のアンケートからも確認することができ、参加者・家族・スタッフ共には「楽しかった」「有意義だった」と記されており、次回のキャンプへの期待も確認できた。具体的には事業を通じて以下の成果を得ることができた。

- ・ 体験活動の現状把握及び対象者のニーズ収集
- ・ 事例の収集と発信
- ・ 意見交換の場の設定
- ・ 特別な配慮が必要な青少年の体験活動推進方策の試行
- ・ 報告書作成と発信

②課題

参加者・家族・スタッフ共により安全で楽しい活動ができる環境づくりが今後の課題である。具体的に以下の項目を考慮しながら次回の活動につなげたい。

- ・ みんながわかる感染症対策
- ・ 初心者向けICT・AT研修の必要性
- ・ 感染症対策をしながら主体性自主性を伸ばす余裕のある環境づくり
- ・ 特別な配慮に対する周囲の柔軟な対応
- ・ 感染症対策・スタッフ確保と研修のための資金調達
- ・ 安全と楽しさ（親密さ）の両立

4. 事業評価（総評・課題・展望・次のキャンプのための準備）

4.1. 自然体験活動を通じた青少年自立支援の意義と評価

現在の日本では、多様性の尊重と共生ということが大切だと言われている。それぞれの人を持っている特徴を大切にしながら、どうして一緒に暮らしていくかを考えようというのである。外国人、性的マイノリティ、障害者など日本社会で多数派でない人を、社会に必要な人材として包み込み、巻き込んでいくことが求められている。労働人口減、介護ニーズの高まり、高齢人口の増加など、日本社会がこれまでにない体験をしようとしている今、その意味は大きい。

これまで児童虐待の対象になったり、引きこもりになったりする発達障害者の非社会性が問題になっているが、このキャンプを通して、どの子どももかわいいと思える体験を私たちはしてきた。つまり、慣れて、その子どもの持つ良さが見え、反対に、困難を克服していく過程を共に体験することによって、これまで難しいと言われてきた発達障害者の大いなる可能性を見出すことができた。一人の子どもとして愛らしい存在になったのだ。

具体的には「はじめに」に書いた個別化や繰り返しが、自然の中でゆったり行われることが大きなポイントになるだろう。キャンプはグループ活動が中心で、学校などではその集団規範を学ぶことを中心にキャンプが行われることが多いが、個別化が先で、一人ひとりをきっちり受け入れることから集団を構成していくことが大切である。規範が先にあるわけではない。このキャンプではそれが実現できた。

そして、今ソーシャルワークで注目を浴びているのが、学習理論をベースにしたコーチングである。本人が楽しいということを中心に、主体的に活動に取り組むこと、そして、それを承認する支援者や仲間がいることによって、自己肯定感を高めていけるような体験、つまり成功体験を繰り返すことがコーチングの基本である。

この体験を肯定的に評価する仲間や支援者がいることがキャンプの大きなメリットである。最初、自分が不安な子どもたちは自己防衛に走るために、なかなか他人を認めることはしにくいものである。繰り返すということは、成功体験を導き出すとともに、知らないところで知らないことをする不安から、仲間の関係を肯定的にとらえる力をつけていくことができる。

WHOが2001年にICF（国際障害分類）を発表したが、この中で環境因子といわれるもの大切さを、キャンプにおけるグループ活動とそれを支援する学生ボランティアに見ることができる。つまり、周囲が受け入れることによって、自己肯定感が高まり、より主体的になり、集団での活動に自信がつくのである。さらにそのことを通して、支援者である学生ボランティアの自己肯定感も高まり、彼らが成長していくことを私たちはこのキャンプを通して、改めて確信することができた。この自己肯定感が自立を支える大きな力になる。

（石田易司 桃山学院大学名誉教授）



4.2. 医療・新型コロナウイルス感染症予防の視点から

人生100年時代と言われて久しいが、医療の進歩と共に高齢化が進んでいる。

その中で老若男女問わず活躍できるような社会が望まれている。

既存の研究にて寿命に影響する因子が報告されているが、最も重要なものが人とのつながりであると言われている。

そこで四ツ橋診療所は地域の中で人とのつながりを持てる「かけはしカフェ」を運営している。子ども、高齢者、障害者、認知症といった垣根のない場づくりを行っている。

新型コロナウイルスが蔓延し始めたため、室内で行うイベントは中止、変更を余儀なくされたが、野外で行うイベントは室内よりも開催しやすいと考えられる。

すなわちこの「わくわくキッズキャンプ」はウィズコロナ時代でも比較的開催しやすいと期待される。ただキャンプという特性上、集団行動も多く密になる状況が多いため、感染には十分留意しなければならない。

新型コロナウイルスにおいては、3密すなわち、密集、密接、密閉を避ける必要がある。具体的な場面としては、食事、野外活動、就寝である。食事においては、BBQなどをして皆で分け合うのがキャンプの醍醐味ではあるが、別所で調理したものをあらかじめ一人一人に取り分けて運ぶという配慮が必要である。野外活動では、人との距離を取りながら極力接触をさけ、場合によってはマスクだけでなくフェイスシールドの着用もおこなう。就寝は、密閉空間とならないように換気の徹底が必要であるが、感染状況に応じて宿泊を伴わないデイキャンプに切り替えることを検討する。

いずれにしても、マスク着用、消毒、換気を徹底し、密にならないようにウィズコロナ時代の新しいスタイルのキャンプを模索していく必要がある。「わくわくキッズキャンプ」は子どもが主体のキャンプであるが、今後子どもだけでなく、子ども、高齢者、障害者といった垣根を超えた多世代が楽しめるキャンプと発展することを願っている。

(安井博規 医療法人弘清会四ツ橋診療所副院長)



4.3. ICT・AT支援の視点から

テクノロジーの活用は障害のある方々の個々の支援のために留まらず、さまざまな活用方法によりキャンプへの参加方法が広がり、また、キャンプでのアクティビティにもっと自立的に参加できることを目的とします。ICTとは「Information Communication Technology」の略称であり、「情報通信技術」と訳されます。ATは「Assistive Technology」の略称であり、「支援技術・支援機器」と訳されます。ATは個人の障害のニーズによって与えられる技術・機器です。例えば、パソコンを使用するのに指が動かせない場合などはその人にあつた特別なマウスが必要となります。指が動かさなくても腕が動かせる場合、頭しか動かせない場合で使うマウスも変わってきます。また、ATはパソコンのようなハイテクではなく、「杖、虫眼鏡、ハイライター」など一般的な物も障害のある人の特定の支援につながる場合は支援技術・機器となります。

ICTの鍵となるのはコミュニケーションであり、パソコンやスマートフォンなどを通して、音声通信だけではなく、文章、ビデオ、写真、ブログ、SNS（Instagram・Twitter・Facebook・LINE等）などで情報更新・共有・受信することができます。コロナ

の影響もあり、様々な場面でパソコンやタブレットの使用が普及しています。また、スマートフォンを持ち歩くことも一般的になっています。

これらを活用して、紙媒体ではできないことを増やしていきます。例えば、文字の拡大、配色の変化、音声認識（文字の音声化）、音声入力（音声から文字入力）などは特別な機器や設定が必要なく使用できます。ICTを普及するとA Tのニーズも削減されることもあり、特別な支援機器を与える必要性が最小限になり、みんなと同じようにアクティビティに参加できることが望めます。

2021年12月20日の「共同研究プロジェクト研究会・福祉レクリエーション実習」のセミナーでは下記のICTをキャンプ参加者の皆さまとのコミュニケーションを楽しく促進するために紹介させていただきました。



①みんなで考えていること・学んだことを
コラボ、シェアやブレインストーミングする
ためのオンライン掲示板・ホワイトボード：
IdeaBoardz

(<https://ideaboardz.com>)

Google Jamboard



②ゲーム感覚で遊びながら学べるオンラインサイト：

Kahoot! (<https://kahoot.com>)

Nearpod (<https://nearpod.com>)

③リモートからでももっと積極的に参加できるようになる遠隔ロボット：

Kubi (<https://kubiconnect.com>)

Ohmni (<https://ohmnilabs.com>)

このようなICTをキャンプ前、キャンプ中、キャンプ後に活用していけると、キャンプの質の向上やキャンプ参加者の参加方法を広げることができると思います。

(高橋桐子 ハワイ大学マノア校教育学部障がい学研究センター暫定ディレクター、
東京大学先端技術研究センター特任准教授)

4.4. TEACCH研究・余暇と自立支援の視点から

本報告では、自閉症支援において世界最先端といわれているTEACCH Autism Programにおける余暇と自立支援について報告します。

TEACCHとは、Treatment and Education of Autistic and Communication handicapped CHildrenの略語で、我が国では「自閉症と関連するコミュニケーション障害児の治療と教育」と訳されています。1972年にノースカロライナ大学医学部精神科に創設され、現在ノースカロライナ州内に7か所の地域センターが設置されています。

TEACCHでは、自閉症児の診断から学校教育や家庭におけるコンサルテーション、成人期の就労支援、そして余暇支援などが行われています。

ノースカロライナ州のアルバマールという小さい町に、TEACCHの協力を得て設立されたGHA Autism Supportという民間の法人があります。GHAでは、カロライナファームという広大な農場を運営し、ここで強度行動障害のある重度の自閉症者が生活しています。農場内にあるグループホームでは15人の自閉症者が居住し、動物や植物を育て、ハーブなどを袋詰めにする作業等で就労トレーニングも行っています。

知的に重度の障害を重複しているため、言葉によるコミュニケーションがとりづらく、それが原因でパニックなどを起こしていた自閉症者に対し、写真1のような具体物によるコミュニケーション指導を行うことによって問題行動はほぼ収まっています。



写真1 具体物によるコミュニケーションツール

余暇に関しては、ストレス発散のために写真2のように馬と一緒に農場内を散歩したり、夏には写真3のように農場内のプールで楽しんでいます。重度の知的障害や行動障害を伴う自閉症者でも、写真4のような視覚的スケジュールなどの「構造化」といわれる指導によって、余暇を楽しみ、写真5のように自分で料理ができるようになるといった自立した生活を送ることができるようになっていきます。(梅永雄二 早稲田大学教授)



写真2 農場内の散歩風景



写真3 農場内にあるプール

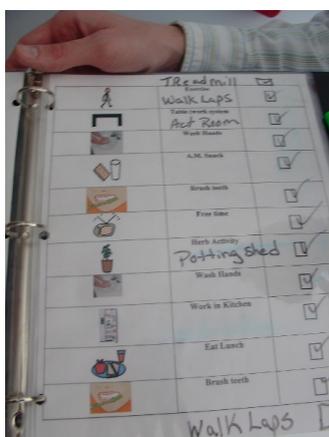


写真4 一日の活動を示した視覚的スケジュール



写真5 クッキングスキルの練習

4.5. スペシャルニーズキャンプをリスタートするために

このコロナ禍において、さまざまな青少年団体が「体験を止めない」の合言葉で、子どもたちの体験活動を再開する努力を続けてきた。

それは、主に下記のような対策である。

- ・事前予約制
- ・参加10日前からの健康管理（スタッフを含む）
- ・簡易検査キットを用いたスタッフの事前のPCR検査
- ・マスクの着用やアルコールなどを使った手指消毒の徹底、こまめな手洗いの指導
- ・テント泊や野外炊事などで個別の活動を推奨
- ・グルーピングの工夫（一部の人間に限る交流にし、多くの参加者を交流させない）

キャンピズのようなスペシャルニーズ対象のキャンプでは、なかなか上記の対策の徹底が難しい。ソーシャルディスタンスを確保することがそもそも難しい。だからこそ再開の判断が難しい。

しかしながら約2年間、子どもを活動から遠ざけてしまっているのも事実である。彼ら、彼女らの「今」は二度と戻ってこない。

「コロナを起こさない」ではなく、「クラスターを起こさない」という発想に変えていくことも大切ではないか。当然、リスクマネジメント的には、「起こさない」だが、コロナが誰でもかかる可能性のある病気と考えると、「クラスターを起こさない」発想の方が現実的だとも言える。このような悩みは、キャンプだけにあるのではなく、学校生活でも、放課後デイサービスでも同様のはずである。子どもたちにその課題を押し付けるのではなく、大人側で解決できる課題もあるのではないかと考える。

キャンピズは会員制である。まず保護者と一緒にこの解決の道筋を考え、ある程度条件提示のもとに、活動を徐々に再開していく方法も考えられる。参加者のために、何を譲り、何を守るのか、どのようにしたら始めていけるのかを共に考えていきたい。

（高瀬宏樹 桃山学院大学兼任講師、

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立曾爾青少年の家企画指導専門職）

4.6. ネットワーク（SNCN）の視点から

スペシャルニーズ・キャンプ・ネットワークは、スペシャルニーズ・キャンプ（SNC）に関する情報発信、調査研究、交流事業、プログラム開発等を通し、SNCの普及・振興を図り、SNCの社会的な価値を高める取り組みを行うことを目的として2016年に設立されたネットワーク団体である。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、時に密集した環境の中で密接な支援を必要とする人たちの余暇活動の実施にも大きな影響を及ぼし、ネットワーク内の団体においてもキャンプ事業の中止や縮小を余儀なくされた。

キャンピズは、20年以上に渡って数多くのSNCを実践し、多くの人材を育成してきた。新しい生活様式下での自然体験活動を実践するにあたって、これまでのノウハウを活かしつつ、新たな組織づくり、研修事業を行いつつ、参加者のニーズに合わせたプログラムを企画・実践・評価を行い、詳細な報告書をまとめられたことは今後のSNCの実践にあたって貴重な資料となるものである。

また、キャンピズは障害児・者のキャンプ事業に加え、就労支援B型事業所も運営している。これは障害のある人たちが生涯に渡って切れ目ない支援を受け、地域の中で共生しながらQOLの高い生活を送るための場として機能し得ることを意味している。これは、

我々ネットワークが目指すspecialをspecialと考えない社会の実現につながるものである。今後もユニバーサル社会の実現に向けて、更に強固な協力体積を築いていきたい。

(野口和行 スペシャルニーズキャンプネットワーク代表 慶応義塾大学教授)

4.7. 実践研究の視点から

キャンプの評価は、主に心理社会的な評価が報告されています。それは自己概念や自己成長などの個人内 (intrapersonal) に関する評価や社会性や対人関係などの個人間 (interpersonal) に関するものです。また、わくわくキッズキャンプの参加者のように発達気になる子どもが参加するようなキャンプでは、心理臨床的な視点からの効果も報告されています。

このような事業の評価は、継続して実施してゆく必要があるように思われます。それは、キャンプの効果について報告してゆくことが、キャンプによる支援を社会的に認知してもらう上で大切であることはもとより、何よりも参加する子どもたちの成長を支援する上で有益になるからです。すなわち、キャンプに参加したことが、子どもたちの成長に効果的であったのか、なかったのか、あるいは、何が成果につながったのか、何が足りなかったのか、などを振り返って検証してみることが事業を発展させる上で重要になると思われるからです。

キャンプの評価には、エビデンスベースの数量的な評価が重要であることは疑いの余地はないのですが、筆者はそれだけでは不十分ではないかと考えています。わくわくキッズキャンプに参加する子どもたちへの効果を考える際には、それぞれの子も個人にとってキャンプが、いかなる効果や意味があったのかということの評価することをめきにしては片手落ちのように思うからです。キャンプに参加してくる子どもたちは、それぞれ抱えている問題や課題が異なっており、それゆえキャンプの効果や意味も異なっているからです。おしなべて同じ観点からエビデンスベースの数量的評価を行ってみても、参加した子ども個人にとってキャンプがどうであったかということについては明らかにならないからです。

竹内・坂本 (2018) は、わくわくキッズキャンプにおける参加者個人の事例研究を行い、その成果について検討しました。子どもへの効果が示されたと同時に、キャンプに共に参加する家族やスタッフにおいても、キャンプが成長の場になっていることが明らかになりました。たとえば、家族では、客観的な視点から子どもを見る機会になり、日常とは異なる子どもの様子をうかがい知る機会になっていたこと。また、スタッフにおいては、子ども理解やキャンプのマネジメントあるいは、子どもとの関わり方を通じてスタッフ自身の成長の場となっていたことがわかりました。

このように、わくわくキッズキャンプの事業評価は、単にキャンプに参加する子どもの評価を積み上げるにとどまらず、キャンパーとその家族、スタッフ、そして社会のためになるという「三方よし」の観点に立って、事業評価を実施することが大切であると思われます。

【文献】竹内 靖子, 坂本 昭裕: 根互成長の場としての発達障害児キャンプ. 野外教育研究, 22, 37 - 49, 2018. DOI, <https://doi.org/10.11317/joej.2018.0003>

(坂本昭裕 日本野外教育学会理事長、筑波大学教授)

4.8. ネットワーク（大阪府キャンプ協会等）の視点から

大阪では、1953年に日本で初めての「肢体不自由児療育キャンプ」、「生活保護児キャンプ」が実施されました。そして60年代から90年代にかけて、主として朝日新聞大阪厚生文化事業団や大阪YMCA、大阪肢体不自由児協会などの公共性の高い民間団体が中心になって、「目の不自由な子のキャンプ」や「精神薄弱児キャンプ」、「重度心身障害者キャンプ」、「非行少年キャンプ」、「学習障害児（LD児）キャンプ」等々、「スペシャルニーズキャンプ」につながっていくキャンプが行われて来ました。蓄積されたキャンプの力は、阪神淡路大震災や東日本大震災でも、被災した子どもたちの心のケアをめざす「グリーンキャンプ」で大きな力を発揮しました。

2000年代に入り、バブルの崩壊と地方財政の悪化等に伴う環境の変化もあり、これまでの大阪のキャンプを支えてきた公共性の高い企業や公益法人、自治体等による、社会貢献活動を主眼としたキャンプが厳しい状況に置かれる中で、1998年の特定非営利活動促進法によって誕生したNPOが、市民活動としてのキャンプという新しい世界を切り開いて、大阪のキャンプを支える主要メンバーの一員となりました。

大阪府キャンプ協会の主たる役割は、キャンプに関係する多くの専門団体やNPOのみなさん、大学等の研究機関や専門家、指導者、ボランティアのみなさんなどのネットワーク化を促進することで、社会に対してキャンプが持つ効果や意義をより強くアピールできる体制をつくっていくことです。例えば、「NPO法人キャンピズ」が実施した「2525子どもキャンプ（子ども食堂の子ども達を支援するキャンプ）」は、大阪府キャンプ協会の設立25周年記念事業の一つとして、他の多くのキャンプ関係団体や個人、企業等から、協賛金や物資の提供、スタッフやリーダーの派遣等の支援を受けることができました。「キャンピズ」の取り組みに見るように、ネットワーク化が促進されることで、単独では開催が難しい研修会や指導者の養成、各種事業の共同開催や支援活動の広がりが可能になり、参加対象者や市民のみなさんへの幅広い周知活動が容易になるなど、キャンプを取り巻く環境整備が進んでいきます。

私たちは、キャンプのネットワーク化のその先に、様々な社会的困難を抱える子ども達をキャンプで支える活動を展開する団体や指導者、ボランティアのみなさんが、互いにつながりあい、支え合って、活動がより活発に展開される関係性を構築することで、子どもたちの心豊かな未来が育まれていくことを固く信じて、これからも取り組んで行きます。

【参考文献】・富山浩三：キャンプマネジメントにおける公から民へ、大阪のキャンプ さらなる躍進 pp6、大阪府キャンプ協会、1997年

・宮川幸雄：キャンプの質的变化と多様化、大阪のキャンプ さらなる躍進 pp9、大阪府キャンプ協会、1997年

（永吉宏英 スペシャルニーズキャンプネットワーク顧問、大阪府キャンプ協会会長）

4.9. 運営スタッフ総評（今後のキャンプに向けて）

ファイヤーディキャンプスタッフの視点から

わくわくキッズキャンプは、ぎりぎりまで宿泊を伴うキャンプを模索しました。しかしながら、感染状況を勘案したうえでキャンプファイヤーをプログラムのメインとしたデイキャンプと、新しい生活様式のもと個人自炊をメインとしたデイキャンプに切り分けて実施することにしました。10月30日に実施したデイキャンプは、1家族のみの参加でした。両親と女兒2名の4人に対し、キャンプディレクター、看護師、社会人スタッフ、学生スタッフ3名の計6名体制で臨みました。かなり手厚い布陣ですが長い間ストップしていたキャンプ再開に際し、慎重に取り組んだ所以でもあります。

キャンプ実施にあたっては、プレキャンプで本番に向けたシミュレーションを行いました。2週間前からの体温や体調の記録を行い、夕食時の配膳や食事時のルール確認、参加者のアレルギーなどの情報を共有しました。その成果は、本番のスムーズなプログラム進行にも表れました。ただ、浮き彫りとなった課題もありました。例えば、クラフトの際の道具の共有です。事前にアルコール消毒はしていましたが、プログラムが進むにつれて使い分けることにしていたハサミが共有されていました。また、子どもと学生スタッフのかかわりが深まることによってお互いの緊張もほぐれ、密着する様子がうかがえました。これが、キャンパーが増え、宿泊を伴うキャンプとなるとさらにコントロールが難しくなることが予測されます。これらの課題はこのキャンプを実施したことによって明るみとなりました。この反省を踏まえ今後のキャンプ計画に向けて備えていくことにいたします。



(水流寛二 ファイヤーディCD)

野外クッキングディキャンプスタッフの視点から

キャンププログラムにおいて「飯ごう炊さん」は集団で調理するものですが、今回メスティンを使用することで、コロナ禍での自炊プログラムをする上でソーシャルディスタンスを保ちながら各自で食材、調理道具を触り、不特定多数が触ることがなく作ることができ効果的であった。また、子ども達は日常生活であまり火を使うことがないので「火をつけること」を体験する機会もあり、「やけど」、「熱い」「火に近づき過ぎない」といったリスクについても学ぶ機会を持つことができた。

クラフトは思い思いの発想で素敵なハロウィンバックが完成し、お菓子を入れてハロウィンの雰囲気を感じ楽しむことが出来た。クラフト作成時に使うハサミやノリなどは不特定で触れるので、参加者分の文房具を用意したり、参加者個々で持参するなど工夫が必要かもしれない。

コロナ禍の中でのキャンプ活動自体集団から個別に活動できる場面も考えていく必要がある。自炊については一人ずつ調理道具や食材を準備してソロキャンプのような形もあっていいのではないか。メスティンのご飯を炊くだけでなく、工夫次第で煮る、焼く、揚げるなど調理するバリエーションが増えます。ポトフ、パスタ、パン、フライなどチャレンジしてみるレシピの幅は広がっていきます。同じようにクラフトについても個々で楽しめるように工夫することでコロナ禍でも楽しめるプログラムを模索していくことが今後必要ではないか。



(阪田昌三・金本直也 野外クッキングディCD)

感染症対策スタッフの視点から

集団でのキャンプと感染症対策は基本的に相反する活動だと考えます。今回のキャンプでは最初に最低限と思われる条件やルールを提示しました。あえて現場での注意やルールの確認はしていません。実施時期の感染状況を確認しながらキャンプの雰囲気を壊さないことを優先しました。

クラフトなどのプログラムは個別に道具や材料を確保する必要があり今までの数倍のコストを見込む必要があります。そして感染対策のルールをプログラム運営に関わるスタッフ全員が正しく理解し、言語化できるようにしておく必要があります。

今回のキャンプでもそもそも場の設定が狭すぎたり、換気を忘れていたりする場面があり

ました。その際に感染症対策について詳しいスタッフがさりげなく人との距離をとるように仕向ける、効率的な換気をするといったフォローの必要がありました。それでも熱中する場面では十分な対策をとることはできていなかったと思います。

今後のキャンプでは効率の良い場の設定が必要だと学びました。それには屋外のほうを実施しやすいとわかりました。それぞれが安心できるテリトリーを作ることでソーシャルディスタンスを保ちながら自炊に参加することが不十分ながらも実践できたからです。

このキャンプでは参加者の特性として誰かの手助けが必要、他者に近接することで安心したくなるといったことがあります。これには家族の協力が不可欠でした。現状では当日感染症に罹患していないと確実に証明できるスタッフがいなかったからです。健康チェック表もつけていましたが誰がどう評価するのかを決めておく必要がありました。今回は37.5度以上の発熱が2週間以上ないことを確認しただけです。これを解決するためには費用と本人（保護者）の同意は必要ですが感染症についてできる範囲の検査（今回については抗原検査）の活用も考慮できるかもしれません。

今後のキャンプでは「直接介助を誰がどう担うのか」「ソーシャルディスタンスを保ちながら展開できるプログラム立案」が大きな課題となるように感じました。また、スタッフを含む参加者がそれぞれ感染対策の基本を意識できるようにマスクの付け方や必要なポイントでの手指消毒を普段から実施している「お約束」「このキャンプのルール」として全員に周知していくことで安全なキャンプを全員で作っていくことができるのではないかと思います。

（花川暁子 キッズキャンプ看護スタッフ）



委託事業スタッフの視点から

1月9日（日）の発表会では、キャンプの思い出を発表したり話し合い、子どもたちそれぞれが次のキャンプでしたいことがすらすらあがるようになってきました。次は、キャンプファイヤー・焼きマッシュマロ・落ち葉でアート・紙飛行機大会・お絵描き・からくりクラフト・メスティンで違う料理に挑戦したい。どんぶり・天ぷら・蒸しパン・・・カレーうどんづくり・ナポリタンもできるかな・・・などなど、場所もそれらのことに挑戦するなら、近くの公園より、火の使える、いつものキャンプ場がよさそうとみんな考えています。

みーちゃんご家族は、花火・凧あげ、流しそうめん・すいかわりにクッキング系に加え、鬼ごっこのリクエスト。意外に妹のすーちゃんは次のキャンプでやってみたい事がたくさんあるそうです。キャンピズのキッズキャンプらしくなってきたなとすこしほっとしています。

今回は、ルールの確認をわかりやすくする工夫ができていなかったのので、次回は感染予防イラスト5.10. [次のキャンプでの新型コロナウイルス感染症対策（おやくそく）]を活用したり、おやくそくをみんな確認して、みんなに伝わっているか確認しながらプログラムができるよう準備していきたいと思います。

（竹内靖子 委託事業担当）



5. 資料

5.1. 【コロナ以前のキッズファミリー共生キャンプリーフレット】

キッズ・ファミリーキャンプに参加するには・・・

- 1 事務局へキャンプ参加申し込み
- 2 キャンピズに入会しよう！ (年会費3000円：毎年4月更新)
- 3 プレキャンプ（説明会）に参加 (5月下旬～6月上旬実施予定)
(参加費スタッフ紹介・インテーク出席費参加費納入等)

ご購入等はキャンピズ事務局まで！

一緒に、発達障がいのある子どもたちは友だちをつくるのが下すて、人の喜怒哀楽を正しく理解することが嬉しい。雨傘から濡れた服を干ったグループ活動であるキャンプは、おそらく彼らの最も好きな体験だろう。

私たちは様々な対象者のキャンプを実施してきた経験から、日本で言われている「キャンプは非日常である」という概念を覆し、「キャンプを日常化する」という考え方でキャンピズというNPOを創設してきた。つまり、メンバーを固定化し、同じキャンプ場で、同じリーダーの下、同じプログラムを何度も繰り返すことで、発達障がいのある子どもたちが苦手なキャンプを、楽しい場に変えてきた。そこで、プログラムに慣れ、メンバーに慣れ、他人であるリーダーに甘えることを覚え、グループ内における自分の役割や仲間との継続性を学び、キャンプは楽しいという「基礎体験」を積み重ねてきた。

このリーフレットは、発達障がいのある子どもたちの共生キャンプのまとめである。たくさんの方が発達障がい児のためのキャンプを実現されることを期待している。

NPO法人キャンピズ スーパーバイザー・徳山学院大学准教授 石田昌司 

いっしょにキャンプしよう!!

CAMPWITH



キッズ・ファミリー共生キャンプを紹介します

NPO法人 キャンピズ

TEL&FAX: 06-7657-5001
E-MAIL: ncw1998@campwith.jp

〒540-0012 大阪市中央区南船場2-20 2F
市民活動スクエアCANVAS白町 (大手筋側南1ビル)

<http://campwith.jp/>

キャンピズは、障がいのあるなしに関わらず、キャンプ・レクリエーション活動を通して、人と人とが信頼し合い、お互いに助け合って生きていく社会づくりを目標とするNPO団体です。(1999年設立、2002年NPO認証)

「キャンピズキッズ・ファミリーキャンプを紹介します！」2018年10月発行 | NPO法人キャンピズ
イラスト：徳山学院大学 石田 昌司 制作 徳山学院大学 石田 昌司

こんなあなたにおすすめします！

- ◆自然の中でいっぱい遊びたい(遊ばせたい)
- ◆家族と離れた宿泊練習(長期宿泊・林間学校の準備)
- ◆みんなであそびたい(集団遊びや集団生活を体験させたい)
- ◆キャンプ好きが集まるキャンプに(家族で)参加したい!
- ◆障がいのあるお友達と一緒に汗を流すことに興味がある
- ◆子どもが楽しんでいる間にゆっくり自分のことをしたい。(ご家族レスパイト)
- ◆共生キャンプを学びたい等

キャンプの準備
チェックリスト

ご利用は、「トコモ市民活動団体への助成金」により作成されています

☆キャンプの流れ

今日は主に2018年8月のキャンプを報告します！
活動の写真は**キャンピズFacebook**をチェック！ 

※親子で参加されても「子ども」と「親」
別々のプログラム(※)があります！

☆キャンプの感想

2018年8月アンケートから

キッズ(5歳児～小学生) スケジュール

※5歳児、深いキャンプ・レクリエーション・体験を通して、社会性や遊び合う力を育てる

【1日目】

12:30 しゅうごう
13:00 しゅっぱつ (でんしゃ)
14:00 おかえりの (あそびく)

15:00 とうちやく
15:30 レクリエーション
16:00 おそとあそび
18:00 よるごはん
19:30 キャンプファイヤー
19:30 あひる
21:00 おやすみおひさい

【2日目】

07:00 おはよう
08:00 あさごはん
08:30 そつじ
09:20 やがいクッキング

11:00 いだきます
12:00 おかたづけ
13:00 おかたのがい (えいご)

14:00 しゅっぱつ (とほろでんしゃ)
15:00 かいさん またあつぷ!



ファミリー スケジュール

※5歳児以上の子どもと親の個性を知る子育て中のママの情報交換・悩み等の解決を目的に

※ 5歳児以下は保護者同伴で参加し、自然の中で遊ぶ。

※ 2018年8月の活動は2018年7月20日(土)に実施しました。

【1日目】

12:30 集合(引継ぎ)
13:00 出発
14:00 買い出し
15:00 キャンプ場到着
15:30 家族紹介※
16:00 キャンプ見学
18:00 夕食
19:30 お風呂
21:00 交流・勉強会※
22:00 就寝サポート

【2日目】

07:00 起床
08:00 朝食
08:30 清掃
09:20 野あそび講座※
11:00 昼食
12:00 片付け
13:00 シェアリング※
14:00 出発
15:00 解散(引継ぎ)



野あそび講師
キャンピズ
水島代表

【キッズ】
たのしー！
むしとりだい！
うどんおいしかった！
おこいちゃんおぬいちゃんにまた会いたいー！あそびー！

【親から見た子どもの変化】
子どもが保育園で積極的になった！！
学校の先生にキャンプの事をうれしそうに話していた！！
いるんもののが何でできているのか？興味が出た！！
初めて親と離れてお泊りできた！
食器洗いを手伝うようになった！！

【ファミリー】
学校とは違う環境で子どもの笑顔がたくさん見れた。スタッフのみなさんが子どもをあたたく見守ってくれ、安心して子どもを任せられた。
子どものペースで付き合ってくれて感謝です。子どもとの向き合い方がわかりそうです。
自然にかこまれた私。私も野外活動がしたい！！

【スタッフ】
子どもの成長がみれた
子どもの喜び言葉の大切さが分かった
一体感を感じることができた

キャンピズキッズファミリーキャンプの特徴

キャンプ経験豊富なスタッフ(ナース/ソーシャルワーカー等)がサポートします。
国産マンツーマンで子どもたちを引継ぐ大社会福祉学科学学生がサポート。
集団での自然体験を通して、子ども同士のスタイルや障がいを理解し、共生キャンプの支援の在り方、環境づくりに活かす場でもあります。 キッズファミリーキャンプRO 竹内 

21 |

5.2. [企画書 2021年8月10日&8月31日変更分]

みんなできろう

わくわく ハロウィンキッズディキャンプ！

2021/08/31(竹内)

【目的】新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、多様なニーズのある人たちがより安全に楽しい自然体験活動を再開することを目標に、ディキャンプをみんなで作ります。社会状況や感染状況に合わせて内容を変更することも考えられますが、一緒にキャンプをつくってみたい小学生を募集します！

【対象】ディキャンプをつくってみたい発達の気になる大阪府(とその近郊)在住の小学生(各コース5名) 家族合わせて10人まで(定員を超えた場合は、書類選考を行います。)

【場所】大阪市立信太山青少年野外活動センター(現地集合・現地解散)

【参加費】3000円を予定(1人につき:夕食または昼食・プログラム費・保険料等含む)現地徴収

【スーパーバイザー】石田易司(桃山学院大学名誉教授)

安井博規(医療法人弘清会四ツ橋診療所副院長)

【スケジュール】

~~Zoom ディキャンプ説明会① 8月21日(土)14:00~15:30(両コース共通) 参加者なしのためキャンセル~~

Zoom ディキャンプ説明会② 8月28日(土)14:00~15:30(両コース共通)

※両説明会の内容は同じものとなります。

Aコース:キャンプファイヤー(必要に応じ zoom ミーティング) 8/16 現在申し込みなし

| | 水流 | 大西 | 小林 | 澤田 | 松井 | | 石田 | 安井 | |
|----------------------|----|----|----|----|----|--|----------|----|---------|
| 9/3(金) 14:00 集合 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 18時 ~ | ? | 竹内・(花川) |
| 10/30(土) 14:00 集合 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ? | ? | 阪田・(花川) |

Bコース:野外クッキング(必要に応じ zoom ミーティング) 8/16 現在子ども2(4)名+母1名?申し込み有

| | 阪田 | 金本 | 信達 | 中野 | 吉田 | | 石田 | 安井 | |
|----------------------|----|----|----|----|----|--|----|----|---------|
| 延期 | - | - | - | - | - | | - | - | (花川) |
| 10/31(日) 10:00 集合 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ? | ? | 水流・(花川) |

つながりのある小学生参加者募集中!

【申し込み方法】申し込みフォーム URL: <https://forms.gle/ik3pK2TYMC1csy4YA>

【申し込み締め切り】8月20(金)まで

プロジェクト事務局:NPO 法人キャンピズ

540-0012 大阪市中央区谷町 2-2-20 2F 市民活動スクエア CANVAS 谷町

キャンピズ Website: <http://campwith.jp/>

キャンピズ facebook: <https://www.facebook.com/campwith>

主催:NPO 法人キャンピズ

文部科学省「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」(子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業)委託事業



5.3. 【広報チラシ】

文部科学省「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
(子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業)委託事業

みんなでつくる わくわくハロウィンキッズディキャンプ！

新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、多様なニーズのある人たちがより安全に楽しい自然体験活動を再開することを目標に、ディキャンプをみんなで作ります。社会状況や感染状況に合わせ内容を変更することも考えられますが、一緒にキャンプをつくってみたい小学生を募集します！



【対象】ディキャンプをつくってみたい発達の気になる大阪府(とその近郊)在住の小学生(各コース5名) 家族合わせて10人まで(定員を超えた場合は、書類選考を行います。)

【場所】大阪市立信太山青少年野外活動センター(現地集合・現地解散)

【参加費】3000円を予定(1人につき:夕食または昼食・プログラム費・保険料等含む)現地徴収

【スーパーバイザー】石田易司(桃山学院大学名誉教授)
安井博規(医療法人弘清会四ツ橋診療所副院長)

【申込方法】申込フォームURL: <https://forms.gle/ik3pK2TYMC1csy4YA>

【申込締切】8月20(金)まで

【スケジュール】

Zoom ディキャンプ説明会① 8月21日(土) 14:00~15:30(両コース共通)
Zoom ディキャンプ説明会② 8月28日(土) 14:00~15:30(両コース共通)
※両説明会の内容は同じものとなります。

Aコース: キャンプファイヤー【10月30日(土) 14:00~19:00 開催予定】

C D: 水流 大西・小林・澤田(桃学大福祉レク実習生)+プロジェクトスタッフ
・9月3日(金) 14:00~19:00 頃スタッフのみ事前プレキャンプ
・必要に応じzoom ミーティング

Bコース: 野外クッキング【10月31日(日) 10:00~15:00 開催予定】

C D: 阪田&金本 信達+プロジェクトスタッフ
・9月4日(土) 10:00~15:00 頃スタッフのみ事前プレキャンプ
・必要に応じzoom ミーティング



申込フォーム
QRコード

主催 NPO 法人キャンピズ
540-0012 大阪市中央区谷町2-2-20 2F 市民活動スクエアCANVAS 谷町
キャンピズWebsite: <http://campwith.jp/>
キャンピズfacebook: <https://www.facebook.com/campwith>



デザイン: 前田将太

5.4. 【プレキャンプ報告】

- 目的：スタッフが本キャンプ（10/30実施）と同じプログラムを実践し、新しい生活様式とこどもの希望に沿ったプログラム支援準備と確認を行う
- 場所：大阪市立信太山青少年野外活動センター（現地集合・現地解散）
- スタッフ：水流・松井・大西・小林・澤田・竹内
- 研修①：新しい生活様式を踏まえた自然体験活動と青少年自立支援
石田易司氏（障害児者キャンプ実践研究者）
- 遠隔によるスーパーバイズ：
新型コロナウイルス対策と実際のプログラム
安井博規氏（インクルーシブ医療実践医師）

| | プログラム（案） | 新型コロナウイルス感染症予防対策 |
|-------|--|---|
| 14:00 | <p>スタッフ現地集合</p> <p>現地集合</p> <p>アイスブレイク（自己紹介）</p> <p>クラフト</p> <p>写真② とんとん相撲</p>  | <p>健康確認（2週間分記入済健康チェックシート持参）</p> <p>持ち物：上靴と筆記用具</p> <p>服装：ファイヤー中は、長袖長ズボン</p> <p>① 三密回避</p> <p>② こまめな消毒</p> <p>③ 換気</p> |
| 17:00 | 夕食 |  |
| 18:00 | キャンプファイヤー | |
| 19:00 | 現地解散 | |

※施設の感染予防対策・参加者個々の所属団体の感染症予防対策を確認し実施

5.5. 【参加者・スタッフへの連絡】

5.5.1. 【2021年10月13日送信メール文面】

キッズディキャンプ参加ご家族様
関係者各位

こんばんは。

いろいろな変化の多い日々ですが、皆様お変わりないことを祈ります。

まだまだ緊張感が必要ですが、新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、以下のキャンプを実施します。

①ハロウィンディキャンプ（ファイヤーコース）10月30日（土）14:30~19:00頃

②ハロウィンディキャンプ（野外料理コース）10月31日（日）10:00~15:00頃

①②両日集合場所（受付）：大阪市立信太山青少年野外活動センター玄関ロビー

事前準備として、郵送物を送付しますが、

以下の準備が必要になりますので、ご準備よろしくお願いたします。

【キャンプ事前準備】

【10/16~】 参加者・家族・スタッフ全員、添付資料と[施設の感染症対策](#)等を確認し、
全員「2_健康チェックシート」を記録してください。

【郵送物到着後至急】「確認メモ」を提出お願いします（fax, pdfで送信可）

【郵送物到着後至急】 該当者は「[アレルギー対応シート](#)」を提出お願いします

※未提出の場合、アレルギー対応食が用意ができない可能性有

↓

【1週間程前】 提出された資料に沿って、CDと活動内容・予防策・持ち物等を確認します！

↓

【キャンプ当日】 受付で ・「健康チェックシート」を提出します（参加者全員）

・キャンプ参加費（子ども1人1000円、大人1人2000円）をお支払いください

↓



キャンプスタート！

※文科省委託事業の為、記録用に活動写真や動画を撮影しますがもし、配慮が必要な場合は事前にCDにご相談ください

※スタッフも、全員「健康チェックシート」の提出がなければ活動に参加できませんので気を付けてください。

みなさまにお会いできること楽しみにしています。

プロジェクトスタッフ一同

ファイヤーディ CD 水流寛二

野外クッキングディ CD 阪田昌三・金本拓也

プロジェクト窓口 竹内靖子

キャンピズ事務局

キャンピズ facebook: <https://www.facebook.com/campwith>

キャンピズ Website: <http://campwith.jp/pg125.html>

5.5.2. [感染症対策基本方針]

感染症対策 基本指針 (2021年10月12日現在)

- ・スタッフの体調管理を徹底し、体調不良者は事業にはかかりません。
- ・スタッフはマスクを着用して活動します。また、飛沫が飛ばないように工夫をします。
- ・適宜消毒を実施できるよう必要な消毒薬を配置します。
- ・食事などマスクを外す場面ではソーシャルディスタンスを確保するか同じ方向を向くよう席を配置します。
- ・食事のとりわけをする人はマスク、フェイスシールド装着を必須とし、ビニール手袋を両手につけます。
- ・活動については、参加者同士の距離をとり、身体接触や物品の共有はしません。
- ・野外炊事についてはマスク着用で行い、加熱処理をするメニューのみ提供します。
- ・参加前、2週間は1日2回(起床時、就寝前)の検温、健康チェックを実施し、健康状態を確認していただきます。体調不良を確認した場合、自覚症状がなくても他覚的に発熱などの症状がある場合は参加をご遠慮いただきます。
- ・替えのマスク、マスクケースはご持参ください。(使い慣れた予防備品(消毒液)等もご持参ください。)
- ・手洗い後のタオルやハンカチを必ずご準備ください。
- ・同居のご家族にコロナ患者または濃厚接触者がいる場合、参加はキャンセルとなります。

【気になることは事前にCDに相談してください】

- ・消毒薬・マスク等(特にアレルギーがある場合など)は、至急CDに連絡してください
- ・CDは、消毒薬等の機能について医師に確認後、人数分のフェースシールド・マスク予備・消毒液・手袋・ペーパータオル・ハンドソープ等、施設と調整後、必要なものを事前に購入し、設置します。
- ・CDは、事前に関係者所属団体の感染症対策調整を行います。
- ・信太山青少年野外活動センター
- ・小学校(大阪市)
- ・キャンピズ
- ・桃山学院大学
- ・感染症対策については各自で確認し、問題がある場合は至急CDに報告してください

10/30(土)参加者・スタッフ 連絡&相談先 ⇒CD 水流 (■■■■@gmail.com)

10/31(日)参加者・スタッフ 連絡&相談先 CD 阪田 (■■■■@campwith.jp)

5.5.3. [健康チェックシート]

健康チェックシート みんなでつこう わくわくハロウィンキッズディキャンプ参加者は全員、集合時にキャンプディレクターにこの健康チェックシートを提出してください。

| 月日 | 10月16日 | 10月17日 | 10月18日 | 10月19日 | 10月20日 | 10月21日 | 10月22日 | 10月23日 |
|-------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 曜日 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 体温(朝) | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ |
| 体温(夜) | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ |
| 呼吸器症状 | 咳嗽(咳) | 無・有 |
| | 呼吸困難 | 無・有 |
| | 鼻汁・鼻閉 | 無・有 |
| | 咽頭痛(のど) | 無・有 |
| その他 | 喉炎・喉腫 | 無・有 |
| | 結膜充血(目) | 無・有 |
| | 頭痛 | 無・有 |
| | 全身倦怠感 | 無・有 |
| | 関節筋肉痛 | 無・有 |
| | 下痢 | 無・有 |
| | 意識障害 | 無・有 |
| | けいれん | 無・有 |
| | その他 | | | | | | | |
| | 家族の体調不良 | 無・有 |
| 備考 | | | | | | | | |

| 月日 | 10月24日 | 10月25日 | 10月26日 | 10月27日 | 10月28日 | 10月29日 | 10月30日 | 10月31日 |
|-------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 曜日 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| 体温(朝) | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ |
| 体温(夜) | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ | ℃ |
| 呼吸器症状 | 咳嗽(咳) | 無・有 |
| | 呼吸困難 | 無・有 |
| | 鼻汁・鼻閉 | 無・有 |
| | 咽頭痛(のど) | 無・有 |
| その他 | 喉炎・喉腫 | 無・有 |
| | 結膜充血(目) | 無・有 |
| | 頭痛 | 無・有 |
| | 全身倦怠感 | 無・有 |
| | 関節筋肉痛 | 無・有 |
| | 下痢 | 無・有 |
| | 意識障害 | 無・有 |
| | けいれん | 無・有 |
| | その他 | | | | | | | |
| | 家族の体調不良 | 無・有 |
| 備考 | | | | | | | | |

※その他の欄の記入例：味覚異常、嗅覚異常があった場合など。
 ※服用した薬などがありましたら、備考に記入してください。
 ※健康チェックシートの提出がなければ、キャンプに参加出来なくなる可能性があります。また健康状態より参加できない可能性もあります。

そこに森の子キャンプ①体温等記録カードを参考に作成

5.5.4. [10/30 新型コロナウイルス感染症予防対策と企画]

ファミリーデイキャンプ

【目的】 新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら、多様なニーズのある人たちがより安全に楽しい自然体験活動を再開することを目標に、ディキャンプをみんなで作ります。社会状況や感染状況に合わせて内容を変更すること も考えられますが、一緒にキャンプをつくってみたい小学生を募集します！

【対象】 ディキャンプをつくってみたい発達の気になる大阪府（とその近郊）在住の小学生
（各コース 5 名） 家族合わせて 10 人まで（定員を超えた場合は、書類選考を行います。）

【日時】 2021 年 10 月 30 日（土） 14：30～19：00

【場所】 大阪市立信太山青少年野外活動センター（現地集合・現地解散）

【参加費】 3000 円を予定（1 人につき：夕食・プログラム費・保険料等含む）現地徴収

【スーパーバイザー】 石田易司（桃山学院大学名誉教授）
安井博規（医療法人弘清会四ツ橋診療所副院長）

【参加者】 キッズキャンプ参加者_久保家：子ども 2 名+大人 2 名（母・父）

【スタッフ】 水流、松井、大西、小林、澤田（、花川、阪田）

プログラム：ハロウィンクラフト、キャンプファイヤー

| | プログラム(案) | 新型コロナウイルス感染症予防対策 |
|------------|--|---|
| 14:30 | スタッフ現地集合 現地集合 アイスブレイク(自己紹介) ハロウィンクラフト | 健康確認(2 週間分記入済健康チェックシート持参) 健康確認 ハロウィン仕様ランプシェードづくり |
| 17:00 | 夕食 | 盛り付けの役割 |
| 18:00 | キャンプファイヤー | 火を囲んで、歌を歌おう、ゲームしよう |
| 19:00 頃 | 現地解散 | |

※デイ利用時間が 10：00-14：00 なので、宿泊前提でセンターへの申請（実際はデイ）

5.5.5. [10/31 新型コロナウイルス感染症予防対策と企画]

ファミリーデイキャンプ

【目的】 新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、多様なニーズのある人たちがより安全に楽しい自然体験活動を再開することを目標に、デイキャンプをみんなで作ります。社会状況や感染状況に合わせて内容を変更することも考えられますが、一緒にキャンプをつくってみたい小学生を募集します！

【対象】 デイキャンプをつくってみたい発達の気になる大阪府（とその近郊）在住の小学生
（各コース 5 名） 家族合わせて 10 人まで（定員を超えた場合は、書類選考を行います。）

【日時】 2021 年 10 月 31 日（日） 10：00～14：00

【場所】 大阪市立信太山青少年野外活動センター（現地集合・現地解散）

【参加費】 3000 円を予定（1 人につき：夕食または昼食・プログラム費・保険料等含む）現地徴収

【スーパーバイザー】 石田易司（桃山学院大学名誉教授）
安井博規（医療法人弘清会四ツ橋診療所副院長）

【参加者】 長谷川家：子ども 2 名+大人 1 名（母）、阪田家：子ども 2 人（小 2、5 歳）

【スタッフ】 金本、信達、中野、吉田、阪田（、水流、花川）

プログラム：野外クッキング、レクリエーション

| | プログラム(案) | 新型コロナウイルス感染症予防対策 |
|-------|-----------------------------------|---|
| 10:00 | スタッフ現地集合 現地集合 アイスブレイク(自己紹介) | 健康確認(2 週間分記入済健康チェックシート持参) 健康確認 |
| | 野外クッキング | おひとりさまクッキング(ソロキャンプめし) メスティンを使ってご飯を炊いてみよう！ 薪に火をつけて、お湯を沸かして、レトルトのカレーを湯煎 |
| | レクリエーション | 牛乳パックを使ってハロウィンバッグを作ろう！ |
| 14:00 | 現地解散 | |

※デイ利用時間が 10：00-14：00

キッズデイ ZOOM ミーティング

2021年10月5日 21:00-22:00

参加者：金本、信達、中野、吉田、阪田

今日のゴール

1. 状況説明

参加者の説明及び、コロナ禍でのキャンプ、感染対策に留意しながらキャンパー、スタッフが楽しめるキャンプ。スタッフも今後のキャンプ再開の参考になるように実施。

スタッフもキャンパーさんとの距離もあるので、個々にプログラムを実施し、楽しみを共有する。

2. 野外クッキングメニュー決める

具材を調理する所からするのはコロナ禍最初のキャンプではリスクや安全に配慮難しいことも考え、レトルトでおひとり様ずつ作り、食べられる自炊を考えることとする。

レトルトカレーを湯煎して、薪に火をつける、湯を沸かす体験をする

備品購入の問題もあるが、メスティンを購入して一人ずつ食器までおひとり様で使用。

レトルトだけ食べての参加費では申し訳ないので、メスティンをキャンプ終了後持ち帰るのはどうか？

プログラムの費用の状況でトッピング（焼き鳥やオイルサーディンなどの缶詰、サラダなど）追加

お米を炊く間にマシュマロを炙って食べるなどもあり。メスティン購入が難しい場合は、サトウのごはんを買うまたは、まとめてご飯だけスタッフが炊く。

メスティンを使ってご飯を炊こう！

<https://camp-quests.com/36866/>



3. レクリエーション何をして過ごすか？

ハロウィンにちなんで何かクラフトをしてはどうかという話になり、ランタン、キャンドルづくりなどアイデアが募る。その中でかわいいクラフトでお菓子を入れるとインスタ映え間違いなし！ハロウィンバッグを作る。

牛乳パックを使ってハロウィンバッグを作ろう！

<https://kurashinista.jp/articles/detail/40245>



当日までの準備及び役割分担

野外クッキング食材購入及び備品：阪田 ※当日キャラバン使用

クラフトハロウィンバッグの消耗品購入：金本

牛乳パックは中野・阪田で準備

5.5.7. [大阪市立信太山青少年野外活動センターアレルギーシート]

こちらにシートの枚数をご記入ください。 ➡ / 枚

給食・野外炊事メニュー アレルギー対応シート ※食堂では喫食されるメニュー以外の調理も行われます。食物アレルギーにつきましてはアレルギー全てをご記入頂きますようお願い申し上げます

発信先: 大阪市立信太山青少年野外活動センター (FAX 0725-41-2963) 送禮日: 月 日 ()

利用団体名: _____ 送禮者: _____

利用日: 月 日 ~ 月 日 連絡先: TEL _____

利用場所: 青少年の家・キャンプ場・弁当(メニュー:) :FAX _____

※正確な除去対応を行うため必ず保護者様のご記入をお願いいたします。代筆は原則対応致しかねます。

ふりがな ふりがな

◆氏名 ◆保護者名

※保護者の方に栄養士からご連絡させていただく場合がございます。(アレルギーの除去対応は、(株)テストバルが行っております。)

アナフィラキシーをお持ちのお客様は、アレルギーの種類に関わらず、原則「持ち込み」をお願いしております。

①食べ物に対するアナフィラキシーをお持ちですか。 ➡ いいえ はい

②アレルギーの種類・程度
 ※製造ラインにおけるアレルギーの除去に関しましては、対応致しかねます。ご理解くださいますようお願い申し上げます。
 当てはまる欄に○ををお願いします。

| アレルギーの強度 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-------------------|------------------|---------------------|-----------------------------------|-----------------|--------------|
| | その食品そのものだけ食べられない | その食品を使った加工食品も食べられない | その食品が成分として使用されている調味料や食品までもが食べられない | 揚げ物調理で油の共有ができない | 調理器具の共有ができない |
| 卵 | (例:生卵) | (例:卵焼き) | (例:マヨネーズ、ふりかけ、ハンバーグ、かまぼこ) | | |
| 牛乳 | (例:牛乳) | (例:チーズ、マーガリン) | (例:カレールウ、ウインナー、つなぎ) | | |
| 小麦 | (例:パン、うどん、ふ、パスタ) | (例:フライ) | (例:しょうゆ、ドレッシング、カレールウ) | | |
| 落花生(ピーナッツ) | (例:ピーナッツ) | (例:ピーナッツバター) | (例:ドレッシング、お菓子) | | |
| そば | (例:そば) | | | | |
| ごま | (例:ごまそのもの) | (例:ねりごま) | (例:ごま油、ドレッシング) | | |
| えび | (例:生えび) | (例:エビフライ) | (例:えびせん、焼きそばソース、皿うどん、味付のり) | | |
| かに | (例:クリームコロッケ) | (例:かにかま) | (例:かにエキス) | | |
| 大豆 | (例:水煮大豆) | (例:豆腐、油揚げ) | (例:みそ、しょうゆ、ドレッシング、大豆油、つなぎ) | | |
| りんご | (例:りんご生、ジュース) | (例:ゼリー、ジャム) | (例:焼肉のたれ、ウスターソース) | | |

◆上記以外の食品 具体的な食品名と、上記を参照にアレルギー強度1~5を記入してください。
 【記入例】 ・ さば 強度 2 ・ ・ ・ だし汁の除去は不要

②その他、食事で対応して欲しい事や連絡がありましたら記入してください

◆対応方法【※こちらは栄養士が記入いたします。】

| | | | | | | |
|-------------|------|-----|----|------|----|------|
| 聞き取りの 有 / 無 | 対応者名 | 栄養士 | 食堂 | センター | 食堂 | 利用団体 |
| | | / | / | / | / | / |

2020.03作成

アレルギー対策シート (大阪市信太山野外活動センター)

<https://www.shinodayama.com/wp-content/uploads/2021/05/a0701bb1a8a7f6b3097e26702c6f278e.pdf>

5.5.8. [スタッフ対象 感染対策の指針と課題]

☆花川ぎよ（看護師）作成プログラム企画時に必要な視点（下記参照）を確認してから企画をお願いします。

感染対策の指針（案）スタッフに対して及び検討や工夫が必要な事項

・使用後の食器の扱い：自分の食器は自分（家族）もしくは直接対応するスタッフのみが後片付けを行う。使い捨て食器の検討もしくは洗浄方法についての取り決めが必要。どこまでを参加者が行うか？まどめ洗いで済むのであれば残飯を処理した後一定時間消毒薬か洗剤入りの水につけてからスタッフが処理するか？水場の密についても併せて検討が必要。

・共有の禁止：食べ物などをシェアしない。特にコップや水筒の貸し借りの禁止。（特にスタッフ同士の貸し借りは注意する）マスクを適切に管理できない参加者であるという前提にたち、クラフトの道具も基本的には共有を禁止し、使用後は消毒して後片付けを行う。何かを消毒するときはスプレーを吹き付けるのではなく、消毒薬を浸した布やペーパータオルなどで清拭する。

・合間の水分補給をするときは一人ずつ：同時にマスクを外さないため、一緒に水を飲むときも基本は相手がマスクを外している間、自分はマスクを外さない。職場感染などはおやつや自分の水分補給など普段なら行う対策が漏れるときに起こっている。

・密を避けるためのプログラム設定。：活動時の配置への配慮が必要。集団行動の後必ず手洗いもしくは手指消毒を行うことができる場の設定。参加者、特に子供は手をつないだ後に顔を触るなどのハイリスク行動を頻回に行うため。

・大声を出すときは必ずマスクを着用：参加者と正対するとき、大きな声で話をしなくてはいけないときは必ずマスクを着用。全体への発言はハンドマイクの使用が楽だが、使用直後には必ず消毒が必要。

・信太山までの移動時、公共の物を触ったあとは手洗いか消毒を行う。：できれば改札を出たタイミングで手指消毒を行う。電車は換気されているはずであるが、同じ車両にコロナ陽性者が乗車している可能性は高い。何も触らず乗車することはかなり困難なので、一番リスクの高い改札機を触った後に消毒を心掛ける。

☆自分も隣にいる誰かも絶対コロナ陰性とは限らない。万が一自分が症状のない陽性者であっても感染を拡大しないことが大切。施設など非常に気を遣う場面では食事介助や近接介助の際は涙腺→咽頭といったウイルスの流れを危惧してゴーグルやフェイスシールドを使用している。相手がマスクを着け続けることが困難であればスタッフ側が眼鏡を常用するなどの工夫もしても良い。（自分も眼鏡やマスクがあることで汚染した手で顔を触らなくて済むことが多い。）

☆汗などでマスクが多量の水分を含んでしまった場合はマスクを取り換える。

5.6. [キャンプファイヤー報告]

5-6-1. 参加者 (A) みーちゃん

3つの写真を選びました！



写真を選んだ理由

左の写真：2年前に参加させていただいたときにキャンプスタッフのピンクゴリラさんをみーちゃんも覚えていて喜んでいたり、工作をする中でみーちゃんが以前より集中していたり、手先が器用になり成長していることを、ピンクゴリラさんや花川さんが2年前のことも覚えてくださっていて、成長を褒めていただいたことがうれしかったようです。作品も含め一緒に写っている写真なので選びました。

真ん中の写真：みーちゃんが「キャンプでやってみたい事」としてお伝えしていたことを、コロナ禍で大変な中実現して下さり有難く思いました。あまり表情が豊かな方ではないのですが、食べながら自然と笑みが溢れていて、本人の嬉しさが伝わる1枚と思い選びました。

右の写真：妹は、今回初参加でした。キャンプの数週間前に行くことを伝えるとき、「行きたくない～！」と大泣きしました。家族全員で行き、参加するのは我が家だけのために開催して下さることを伝えても、泣き止まず。新しい場所、新しい事、見通しが立たないことに苦手さがある子なので、弱いところが出てしまい参加できないかも？と思っていた位でしたが、恐る恐るでの参加でしたが、夕食にはすっかりなじみ「キャンプに来て良かった！」とこの笑顔でした。

以上です。

私達家族のみの参加にもかかわらず開催頂き、本当にありがとうございました。みーちゃんは、不登校傾向でしたが、キャンプで気分転換になり楽しませていただきました。

キャンプファイヤーの時に見た飛行機の光を2人共、UFOと思い込んでおり（笑）、今でも夜飛行機の光が動いているのを見かけると「UFOだ～！」と喜んでます。

家族皆でとても楽しく参加させて頂き、ありがとうございました。



5.6.2. スタッフレポ (小林)



クラフト

#ガボチャのお菓子バック 🍠 #世界に一つ 🌍 #ハッピーハロウィン 🎃 #お菓子をくれなきやいたずらしちゃうぞ 🤪 #頑張って作った ✨

感想

・2人の姉妹が一生懸命作ってる姿が可愛くて、こだわって作っていたのが印象的でした。

夕食

#黙食 🤫 #ソーシャルディスタンス #ハンバーグシチュー 🍲 #いただきます 🙏 #完食 ✨

感想

・普段あまり食べないと聞いていましたが、この日は沢山食べていました。野菜嫌いと聞いていたのに、野菜も残さず完食していました。それを見て私たちも、嬉しかったです。

キャンプファイヤー&焼きマシュマロ

#炎 🔥 #焼きマシュマロしか勝たん 🍡 #ほっぺとけた 🥰 #手遊び 🎵 #円盤ゲーム 🎮 #ゴバナナゲーム 🍌 #名残惜しい 🥲

感想

・2人の姉妹の最初の印象は、少し恥ずかしがり屋でおとなしい印象でした。でもクラフト、夕食の時間を一緒に過ごすことで距離も縮まり、キャンプファイヤーではとても大声を出してくれました。ゲームも盛り上がり、最後には残り火で焼きマシュマロをみんなと食べました。念願のリクエストに応えることができ、たいへん喜んでもらいました。

5.7. [野外炊事報告]

5.7.1. 参加者 (B) ドラえもんくん



キャンプランキング



1位

お米を炊いたこと

- ・自分の分は全部自分で作れる
- ・家でもやりたい
- ・はじめてお米1合を食べた！



2位

火おこし

- ・木の組み方を教えてもらった
- ・薪から大量のごキブリ！
- ・マシュマロ最高！！

3位

クラフト

- ・自分でシールや折り紙を選べる
- ・簡単にできて、自由に作れる
- ・山盛りのお菓子！



母コメント

火遊びを思いっきりできる環境、お手伝いと嫌がるのにはしゃいで取り組んだ自炊、大好きなクラフトを屋外で楽しめる。子供への最高の時間のプレゼントができました。親子揃って日常から飛び出してリフレッシュできたことがよかったです。

5.7.2. 参加者(C)りょうちゃん・スタッフ (阪田)

りょうちゃんの感想



ひとりでごはんがつくれた
(カレーおいしかった)

つぎはかみひこうきつくりたい!



マシュマロやいておいしかった



キャンプネーム(呼び名)がたくさん

保護者のコメント

今は小学2年生。成長しているなど思うこともあり、普段の生活では見られない一面がありました。成長したなと思ったのは、一緒に参加していた子ども達のお手伝いや少しお兄さんっぽく振舞っていたことがうれしかったです。普段自宅ではIHなので、火を使う場面はほんとになく、やけどするか？危ないな？火をつけることを身をもって体験できたと思います。ご飯は炊飯器で炊くのが当たり前だけど、自分でお米を炊いたことがうれしかったようです。

5.7.3. スタッフレポ (金本)

久しぶりのキャンプ！子どもたちは自分たちでしてみたいことをどんどん見つけて取り組んでいました☆
そのなかでも印象的だったことは、3つあります。
1つ目はお米を洗うときにジップロックにお米をいれて洗っていたことです。「なんでジップロックにいれているの？」ときくと「洗やすいと思って」と教えてくれました。
2つ目は、焼きマシュマロです。子どもたちと焼きマシュマロしたのですが、これまた大人顔負けなぐらい焼くのが上手で驚きました。
3つ目は、ぼくが残炭処理しようとしていたら、「それどうするの？やってみよう！」と自発的に声をかけてくれたことです。子どもたちの好奇心、やってみようという熱い気持ちがひしひしと伝わってきました。
どのプログラムもゆったりしていて、人数、時間など含め安心して楽しめる環境だったかなと思います。



残炭処理を体験！！



焼きマシュマロおいし〜！



ハロウィンバック☆



トトロを発見！！



メスティンを使ってカレーライス作り！

メスティン(はんごう)を
つかってお米を炊こう



①お米を洗う



②お米を15~30分
水につける



③ と をセットする



④ に火をつけて
メスティンをおく



⑤火が消えたらタオルにくるんで
ひっくりかえす。15分むらす



⑥できあがり



カレーを湯煎する



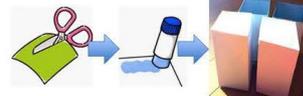
ハロウィンバックをつくろう



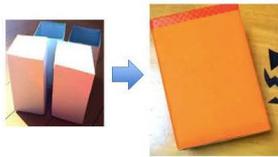
①牛乳パックをきります



②おりがみをはります



③切り口はマスキングテープではります



④かざりつけします



⑤穴あけパンチで2ヶ所
穴を開けます



⑥2本のモールをねじって
1本にします



⑦穴にモールをとおします



⑧できあがり！



5.8. 【参加者アンケート結果】

10/30 参加者アンケート結果

| | 参加者 A |
|---|--|
| タイムスタンプ | 10/31/2021 11:25:54 |
| 1. キャンプは楽しかったですか？ | 楽しかった |
| 2. 楽しかったことは？（複数回答可） | ハロウィンクラフト（10/30_土曜実施）、夕食（10/30_土曜実施）、キャンプファイヤー（10/30_土曜実施） |
| 3. 次のキャンプでしたいことは何ですか？ | 花火（打ち上げ花火、線香花火）、キャンドル作り |
| 4. キャンプの感想 参加者・スタッフへのメッセージ をご記入ください | 2年前に参加した時にもいて下さったスタッフさん達が以前の様子も覚えてくださって嬉しかったです。また、娘が希望した焼きマシュマロも、コロナ禍で色々制限がある中で実現して頂き、大変喜んでいました。ありがとうございました！ |
| 5. キャンプに参加して子どもたちに変化がありましたか？ | はい（質問6へ） |
| 6. どんな変化がありましたか？ | 自宅では感じられなかつ成長が見られた事や、久しぶりに大笑いしたりしている様子や自由にしても注意されたりする事がない環境でストレス発散にもなったようです。ありがとうございました。 |
| 7. 新型コロナウイルス感染症対策やその他ご意見やご感想があればお聞かせください。 | コロナ禍の為いつも以上に準備等にご苦労がある中、開催頂き本当にありがとうございました。 |
| 8. 参加したコースを選んでください（複数回答可） | キャンプファイヤーコース（10/30_土曜実施） |

10/31 参加者アンケート結果

| | 参加者 B |
|---|---|
| タイムスタンプ | 11/5/2021 17:54:47 |
| 1. キャンプは楽しかったですか？ | 楽しかった |
| 2. 楽しかったことは？（複数回答可） | アイスブレイク_自己紹介（10/31_日曜実施）、野外クッキング（10/31_日曜実施）、レクリエーション_クラフト（10/31_日曜実施）、火！マシュマロ！ |
| 3. 次のキャンプでしたいことは何ですか？ | 火！ |
| 4. キャンプの感想 参加者・スタッフへのメッセージ をご記入ください | 楽しかった。ありがとう。 |
| 5. キャンプに参加して子どもたちに変化がありましたか？ | はい（質問6へ） |
| 6. どんな変化がありましたか？ | はつらつとした！ |
| 7. 新型コロナウイルス感染症対策やその他ご意見やご感想があればお聞かせください。 | しっかり対策して下さり、安心して参加できました。 |
| 8. 参加したコースを選んでください（複数回答可） | 野外クッキングコース（10/31_日曜実施） |

| | 参加者 C |
|-----------------------|--|
| タイムスタンプ | 11/7/2021 10:08:52 |
| 1. キャンプは楽しかったですか？ | 楽しかった |
| 2. 楽しかったことは？（複数回答可） | アイスブレイク_自己紹介（10/31_日曜実施）、野外クッキング（10/31_日曜実施）、レクリエーション_クラフト（10/31_日曜実施） |
| 3. 次のキャンプでしたいことは何ですか？ | 紙ひこうき大会 |

| | |
|--|--|
| <p>4. キャンプの感想 参加者・スタッフへのメッセージ をご記入ください</p> | <p>子どもたちの感想 お菓子たくさんもらえてうれしかった。 薪に火をつけたこと。焼きマシュマロおいしかった。 自分でお米を炊いたこと。</p> <p>大人の感想 久々にキャンプに行って楽しく過ごせた。改めてキャンプやりたい気持ちが強くなりました。キッズに子どもたちが参加するたびに1年ごとに成長を感じる事が親としてはうれしい。</p> <p>スタッフの感想 自炊に制限がある中でメスティンを使ったご飯を炊く試みは子どもも大人も楽しめたようで今回良い試みだったと思います。 ハロウィン時期に合わせてクラフトもよかったと思います。</p> |
| <p>5. キャンプに参加して子どもたちに変化はありましたか？</p> | <p>はい（質問6へ）</p> |
| <p>6. どんな変化がありましたか？</p> | <p>前回の参加より自分でできることが多くなった。</p> |
| <p>7. 新型コロナウイルス感染症対策やその他ご意見やご感想があればお聞かせください。</p> | <p>緊急事態宣言解除の中で少々慣れ出来ている所なので、手洗い、アルコールなどの感染症対策は基より、備品など複数が触ることなどをもう少し工夫が必要。少人数の参加で屋外で食事をするとソーシャルディスタンス（2m）を保ちながらマスクを外して、対面で食べられるのは表情が見えてよかった。</p> |
| <p>8. 参加したコースを選んでください（複数回答可）</p> | <p>野外クッキングコース（10/31_日曜実施）</p> |

5.9. [スタッフアンケート結果]
10/30 スタッフアンケート結果

| | スタッフA | スタッフB | スタッフC |
|---|--|--|--|
| 1. キャンプ(活動)は楽しかった(有意義だった)ですか？ | 楽しかった(有意義だった) | 楽しかった(有意義だった) | 楽しかった(有意義だった) |
| 2. 楽しかった(有意義だった)ことは？(複数回答可) | アイスブレイク_自己紹介(10/30_土曜実施)、ハロウィンクラフト(10/30_土曜実施)、キャンプファイヤー(10/30_土曜実施) | キャンプファイヤー(10/30_土曜実施) | ハロウィンクラフト(10/30_土曜実施)、キャンプファイヤー(10/30_土曜実施)、zoom会議 |
| 3. プログラム(活動)ごとに印象的だったことや、学んだこと、気になったこと等記入してください(記入例:①プログラム名:印象的だったこと気になったこと学んだことなど記入) | クラフト: 久々のキャンプで子供達の成長を感じることがあった。また、対象に合わせた道具選びの重要性があった。 感染症対策と性的面立が少しいずれも自主的だった。ファイヤー: 感染症予防と楽しく大きな声や手を繋ぐなどの面立がどこまでおっつけいなのか少し難しかった。 マジマロを焼くのはとても美味しくて好評だった。 | 1クラフト: 子供たちが自由に作り独自の作品を作っていたのが印象に残っている。2キャンプファイヤー: クラフトで仲良くなったおかげで、キャンプファイヤーも楽しく良い思い出ができたので、ゲームを進行しやすかった | 30日のクラフトは2人とも集中し取り組んでおり、出来上がりについても満足していた。 |
| 4. 次のキャンプで取り組みたいことは何ですか？ | 1泊の泊まり | | |
| 5. キャンプの感想 参加者・スタッフへのメッセージ をご記入ください | 楽しかったし、またこれからできることを増やしていきたいと思いました。 | キャンプファイヤーで最後の小さい火の時にマジマロを焼いたのが良かったので次もしたい | やはり、会話のある食事風景を求めたいところです。ささやかなディキャンプにもかかわらず、感激いただいたところに感謝します。 |
| 6. キャンプや活動に参加してご自身に変化はありましたか？ | はい(質問7へ) | はい(質問7へ) | はい(質問7へ) |
| 7. どんな変化がありましたか？ | 2週間に一度のPCR検査を受けてるという安心があったが、周りはそうでないと感じたので感染症対策を怠らないようにしようと思うようになった。 | 2年キャンプ活動を行ってなかったのに、正直そこまで期待してなかったが、久しぶりにみんなでキャンプ活動すると楽しくなった。 | 対面で活動することの大切さを改めて感じ取る(実感)ことができました。こちらが元気になりました。 |
| 8. 新型コロナウイルス感染症対策やその他ご意見やご感想があればお聞かせください。 | | | |
| 9. 参加した取り組みを選んでください(複数回答可) | キャンプファイヤーコース(10/30_土曜実施)、プレキャンプ | キャンプファイヤーコース(10/30_土曜実施)、プレキャンプ、zoom会議 | キャンプファイヤーコース(10/30_土曜実施)、プレキャンプ、zoom会議、スーバーハイス |
| 10. ご記入者名(よろしければご記入ください) | しよーへー | 小林萌絵 | 水流通二 |

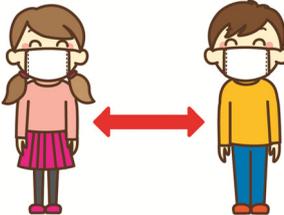
10/31 スタッフアンケート結果

| | スタッフD | スタッフE | スタッフF | スタッフG |
|---|---|--|--|--|
| 1. キャンプ(活動)は楽しかった(得意な部分)ですか? 2. 楽しかった(得意な部分)とは? (複数回答可) | 楽しかった(得意な部分) オーストラリアに初めて(10/31_日曜) 参加。野外ワークショップ(10/31_日曜) 参加。レクリエーションクラフト (10/31_日曜)参加。 | 楽しかった(得意な部分) アウトドアに初めて(10/31_日曜) 参加。野外ワークショップ(10/31_日曜) 参加。レクリエーションクラフト (10/31_日曜)参加。 | 楽しかった(得意な部分) 野外ワークショップ(10/31_日曜)参 加。 | 楽しかった(得意な部分) 野外ワークショップ(10/31_日曜)参 加。レクリエーションクラフト(10/31_ 日曜)参加。 |
| 3. プログラム(活動)ことに印象的だったことや、学んだこと と、気がなったこと等記入してください(記入例: ①プログラム 名: 印象的だったこと等になったこと等)記入) | 自然初めマスタインを初めてお話を 聞いたこと。 野外ワークショップはコロナ指での企画とし ては工夫が必要ではあるが、プログラム として新しく新鮮だった。 | アイスブレイクキッズの思い出を語り 合うのが良い雰囲気だった。また、きつ ずきやんぷをやってほしい生の声を聴い た。 野外ワークショップはコロナ指での企画とし ては工夫が必要ではあるが、プログラム として新しく新鮮だった。 | 産別の旅版(マスタイン) | クラフトは、商品の質し作りがみられ たので、一人ワケセットクラフトヤツ トを用意した方がいかなると思いまし た。またプログラムを始める前にルー ルを解説することも大切だと思いまし た。 |
| 4. 次のキャンプで取りたいことは何ですか? | キャンプファイヤー | 産別 | 産別 | 野外仕事をどんな取りたいですか い 楽しかったです。 |
| 5. キャンプの感想 参加者・スタッフへのメッセージ をご記 入ください | 楽しんでいたけどほんとうにありがとうございました! ございました! | 参加者、スタッフもみな楽しいうちも あっていい雰囲気でした。初めてのキ ャンプだったので楽しかったです。参加者 の成長を継続する中で覚えていけること がうれしい。 | いいえ (質問8へ) | はい (質問7へ) キャンプの楽しさを思い出 しました。またやりたいなあと意欲的 になりました。 |
| 6. キャンプや活動に参加してご自身に変化はありましたか? | いいえ (質問8へ) | 子どもの成長を身近にみて感じることに 出来る。 | いいえ (質問8へ) | はい (質問7へ) キャンプの楽しさを思い出 しました。またやりたいなあと意欲的 になりました。 |
| 7. どのような変化がありましたか? | いいえ (質問8へ) | 緊急事態宣言解除と感染予防意識が減少して いる中でキャンプだったので、何となく 余裕があったのかもしれない。感染症 対策に慣れたのもポイント。子どもは キャンプの楽しさをスタッフ の笑顔に慣れたのもポイント。子ども はキャンプの楽しさをスタッフの笑顔に 慣れたのもポイント。子どもはキャンプ の楽しさをスタッフの笑顔に慣れたのも ポイント。子どもはキャンプの楽しさを スタッフの笑顔に慣れたのもポイント。 子どもはキャンプの楽しさをスタッフの 笑顔に慣れたのもポイント。子どもは キャンプの楽しさをスタッフの笑顔に慣 れたのもポイント。子どもはキャンプの 楽しさをスタッフの笑顔に慣れたのも ポイント。子どもはキャンプの楽しさを スタッフの笑顔に慣れたのもポイント。 | 手洗い石鹸を使用しとけはまかっ た。 | 感染予防は、キャンプという特性上、 感染予防意識が減少してきている中で キャンプだったので、何となく余裕があ ったのかもしれない。感染症対策に慣 れたのもポイント。子どもはキャンプの 楽しさをスタッフの笑顔に慣れたのも ポイント。子どもはキャンプの楽しさを スタッフの笑顔に慣れたのもポイント。 子どもはキャンプの楽しさをスタッフの 笑顔に慣れたのもポイント。子どもは キャンプの楽しさをスタッフの笑顔に慣 れたのもポイント。子どもはキャンプの 楽しさをスタッフの笑顔に慣れたのも ポイント。子どもはキャンプの楽しさを スタッフの笑顔に慣れたのもポイント。 |
| 8. 新型コロナウイルス感染症対策やその他ご意見やご感想があ ればお聞かせください。 | 感染対策の感染対策の意識はやは り必要だと感じます。 | | | |
| 9. 参加した取り組みを振り返ってください (複数回答可) | 野外ワークショップ(10/31_日曜)参 加) | 野外ワークショップ(10/31_日曜)参 加) | 野外ワークショップ(10/31_日曜)参 加) | 野外ワークショップ(10/31_日曜)参 加)、Zoom参加 |
| 10. ご記入者名(よろしければご記入ください) | 吉田 真沙 | 阪田昌三 | 中野聖太 | 佐本拓也 |

10/30-31 スタッフアンケート結果

| | スタッフH |
|---|--|
| 1. キャンプ（活動）は楽しかった（有意義だった）ですか？ | 楽しかった（有意義だった） |
| 2. 楽しかった（有意義だった）ことは？（複数回答可） | キャンプファイヤー（10/30_土曜実施）、野外クッキング（10/31_日曜実施）、レクリエーションクラフト（10/31_日曜実施） |
| 3. プログラム（活動）ごとに印象的だったことや、学んだこと、気になったこと等記入してください（記入例：①プログラム名：印象的だったこと気になったこと学んだことなど記入） | 野外クッキング 参加者が自分の時間を自分で楽しくしていた。 |
| 4. 次のキャンプで取り組みたいことは何ですか？ | 今回のように参加者の希望を1つずつ叶えていけるプログラム作り。 |
| 5. キャンプの感想 参加者・スタッフへのメッセージ をご記入ください | 感染対策が大変な中ですが、基本が周知できない事が気になります。医師の提案に従えませんが今後どう対応していくのか、どうすればエビデンスを抑えた上でプログラムを運営できるのか振り返ることでこれから安全で楽しいキャンプを提供していけると思います。1番大変な第一歩、お疲れさまでした。 |
| 6. キャンプや活動に参加してご自身に変化はありましたか？ | いいえ（質問8へ） |
| 7. どんな変化がありましたか？ | |
| 8. 新型コロナウイルス感染症対策やその他ご意見やご感想があればお聞かせください。 | 指針は出来ていましたが、ゲームのようにわかりやすいルールを明確にするともう少し確実に感染対策できると思いました。 |
| 9. 参加した取り組みを選んでください（複数回答可） | キャンプファイヤーコース（10/30_土曜実施）、野外クッキングコース（10/31_日曜実施）、zoom会議 |
| 10. ご記入者名(よろしければご記入ください) | |

5.10. [次のキャンプでの新型コロナウイルス感染症対策（おやくそく例）]

| | |
|--|---|
|  <p>体調不良を感じたら中止しよう</p> |  <p>マスクを正しくつけよう</p> |
|  <p>こまめに正しく手洗い消毒しよう</p> |  <p>ソーシャルディスタンスをとろう</p> |

※キャンプ前に社会状況に合わせ専門家とルールを決定

おわりに（謝辞）

この事業がたくさんのお力添えにより実施できたことを感謝します。

2020年3月以降、新型コロナウイルス感染予防対策の為、これまで日常となりつつあったキャンピズでのキャンプが中止になり、どうにかできることから始めていく新たなキャンプづくりをこの報告書にまとめました。

できることから取り組んでいくと、できることの選択肢が増えていきました。例えば遠隔でのつながりづくりも、はじめは操作を間違えることが多く、前向きに遠隔でのつながりづくりを活用できていなかった私たちも、今では、状況に合わせ会議画面を選んだり、アプリを活用することで楽しい時間をすごせるようになってきました。対面活動での感染予防対策も医療スタッフと行う安心感に加え、ご家族ごとの少人数参加にすることで、間違えても次どうしたらできるか考え学んでいく環境を整えることができました。

文部科学省令和3年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」委託事業、子どもたちの心身の健全な発達のための自然体験推進事業として、こどもとつくるわくわくキッズキャンププロジェクトとして、子ども、家族、スタッフ、関係団体の先生方からの感想や意見を詳細に記録することもできました。それらの記録を拝見し、キャンピズの活動の意義や価値を再確認する機会を得ました。

中でも、これまでの関係団体に加え、ハワイ大学障がい学研究センターでの在外研修中の学びは、多様な価値を尊重しながら研究を行う実践研修であり、たくさんの学びがありました。それらの学びをこの報告書から感じていただけると嬉しく思います。

新型コロナウイルス感染症対策をしながら、子どもキャンプをどのようにスタートすればいいのか、これからも個々の自問自答を共有しながら、つながりや成長を感じ合えるキャンプができるよう研究を続けていきたいと思っておりますので引き続きよろしくお願いいたします。

委託事業担当 桃山学院大学社会学部准教授 竹内靖子

執筆者一覧（執筆担当）（50音順）

| | |
|-------|--|
| 石田 易司 | キャンピズスーパーバイザー 桃山学院大学 社会学部 名誉教授（はじめに①/4.1.） |
| 梅永 雄二 | 早稲田大学 教授（4.4.） |
| 金本 拓也 | キャンピズ理事 社会福祉法人ライフサポート協会生活介助はびな 支援員（4.9/5.7.3.） |
| 久保 全子 | キャンピズキッズファミリーキャンプメンバー（5.6.1） |
| 小林 萌絵 | キャンピズ学生スタッフ 桃山学院大学 3回生 福祉レクリエーション実習生（5.6.2） |
| 阪田 昌三 | キャンピズ総務部長 就労支援B型ウイズ芦屋管理者（4.9/5.7.3.） |
| 坂本 昭裕 | 日本野外教育学会理事長 筑波大学教授（4.7.） |
| 高瀬 宏樹 | 桃山学院大学 兼任講師 国立青少年教育振興機構国立曾爾青少年自然の家 企画指導専門職（4.5.） |
| 高橋 桐子 | ハワイ大学障がい学研究センター 暫定ディレクター 東京大学先端技術研究センター 特任准教授（4.3.） |
| 竹内 靖子 | キャンピズ理事 桃山学院大学 准教授（1./2./3./4./5./おわりに） |
| 水流 寛二 | キャンピズ代表理事 桃山学院大学 兼任講師（はじめに②/4.9.） |
| 永吉 宏英 | スペシャルニーズキャンプネットワーク顧問 大阪府キャンプ協会 会長 日本野外教育学会元会長（4.8.） |
| 野口 和行 | スペシャルニーズキャンプネットワーク代表 慶應義塾大学教授（4.6.） |
| 長谷川諭美 | キャンピズキッズファミリーキャンプメンバー（5.7.1） |
| 花川 暁子 | キャンピズキッズキャンプ看護師（4.9./5.） |
| 安井 博規 | キャンピズ新型コロナウイルス感染症対策アドバイザー 医療法人弘清会 四ツ橋診療所 副院長（4.2.） |

運営スタッフ

ファイヤーディキャンプスタッフ（2021年10月30日）

水流 寛二 花川 暁子 松井 翔兵 大西 翼 小林 萌絵 澤田 海人

野外クッキングディキャンプスタッフ（2021年10月31日）

阪田 昌三 花川 暁子 金本 拓也 中野 堅太 吉田 翼沙 信達 和典

医療アドバイザー 安井 博規

スーパーバイザー 石田 易司

イラスト制作 前田 由香里

チラシ制作 前田 将太

印刷・データ調整 藤原 一秀

委託事業スタッフ 竹内 靖子 阪田 昌三

編集・構成 竹内 靖子

こどもとつくる わくわくキッズキャンププロジェクト 報告書

2022年1月発行

編集・発行 特定非営利活動法人 キャンピズ
桃山学院大学 社会学部 竹内靖子研究室

印刷・製本 有限会社 エルピス社
〒658-0053 兵庫県神戸市東灘区住吉宮町 1-6-8
電話 078 (414) 8356

写真、本文、資料のコピー複製・転載を希望される場合はご連絡ください。©キャンピズ桃山学院大学竹内靖子研究室
この報告書は、文部科学省令和3年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」委託事業：子どもたちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業：発達の気になるこどもとつくるわくわくキッズキャンププロジェクト、NPO法人キャンピズ、桃山学院大学竹内靖子研究室により作成されています。